



[第1.0版 RC3]

0. 目次

0. 目次	P. 2
1. 改訂履歴	P. 3
2. 前提条件	P. 4
2.1 Intel x86 32bit版のハードウェアの前提条件	P. 4
2.2 AMD 64bit版のハードウェアの前提条件	P. 4
3. インストール作業の流れ	P. 5
3.1 Fedora Coreをクリーンインストールする場合	P. 5
3.2 WindowsとFedora Coreを切り替えて使いたい場合	P. 5
3.3 サーバーのOSとして利用する場合	P. 5
4. 起動	P. 6
3.1 CD/DVDドライブからの起動	P. 6
3.2 ブートローダーの主なオプション	P. 6
5. グラフィカルモード	P. 7
4.1 クリーンインストールの場合(自動パーティショニング、DHCPによるネットワーク設定)	P. 7
4.2 Windowsとのデュアルブートの場合(手動パーティショニング、手動ネットワーク設定)	P. 19
6. テキストモード	P. 34
5.1 クリーンインストールの場合(手動パーティショニング、手動ネットワーク設定)	P. 34
7. VNCモード	P. 48
6.1 クライアントPCに画面を転送する場合	P. 48
6.2 インストールマシンへ接続する場合	P. 48
8. ファーストブート	P. 49
9. アップデート作業	P. 54
8.1 グラフィカルなアップデート作業	P. 54
8.2 コマンドラインによるアップデート作業	P. 60

2. 前提条件

2.1 Intel x86 32bit版のハードウェアの前提条件

サポートされるハードウェアの前提条件は下記の通りです。

1. 共通条件

- ・ Intel Pentium互換CPUを搭載しているPC
- ・ CD-ROMからの起動が可能であること
- ・ ハードディスクの容量

インストールタイプ	必要となる容量
カスタム構成(最小構成)	620MB
サーバー構成	1.1GB
パーソナルデスクトップ構成	2.3GB
ワークステーション構成	3.0GB
カスタム構成(最大構成)	6.9GB

2. テキストモードの場合

- ・ Pentium 200MHz以上のIntel互換CPUを推奨
- ・ 最低64MBのメインメモリー

3. グラフィカルモードの場合

- ・ Pentium II 400MHz以上のIntel互換CPUを推奨
- ・ 最低192MBのメインメモリー(推奨は256MB以上)
- ・ VESA2.0互換のビデオカード
- ・ PS/2マウス、USBマウス等の入力デバイス

2.2 AMD 64bit版のハードウェアの前提条件

サポートされるハードウェアの前提条件は下記の通りです。

1. 共通条件

- ・ AMD64互換CPUを搭載しているPC(Athlon64, Opteronなど)
- ・ Intel Extended Memory 64 Technology(EMT64)対応のCPUを搭載しているPC
- ・ CD-ROMからの起動が可能であること
- ・ ハードディスクの容量

インストールタイプ	必要となる容量
カスタム構成(最小構成)	900MB
サーバー構成	1.5GB
パーソナルデスクトップ構成	2.7GB
ワークステーション構成	3.4GB
カスタム構成(最大構成)	7.5GB

2. テキストモードの場合

- ・ 最低128MBのメインメモリー

3. グラフィカルモードの場合

- ・ 最低256MBのメインメモリー(推奨は512MB以上)
- ・ VESA2.0互換のビデオカード
- ・ PS/2マウス、USBマウス等の入力デバイス

3. インストール作業の流れ

3.1 Fedora Coreをクリーンインストールする場合

OSがなしで新しくコンピューターを購入し、Fedora Coreをインストールしたい方
Windowsが嫌になったのでFedora Coreのみで頑張っていこうと思う方
は以下の手順でインストール作業を行います。

1. CD/DVDからFedora Coreインストーラーを起動します。(6ページ参照)
2. グラフィカルモードでクリーンインストールします。(7ページ参照)
3. ファーストブートにより初期設定を行います。(49ページ参照)
4. グラフィカルなアップデート作業を行います。(54ページ参照)

3.2 WindowsとFedora Coreを切り替えて使いたい場合

Linuxが注目を浴びているので、Fedora Coreを少し試してみたい方
どうしてもWindows環境を捨てることのできない方
は以下の手順でインストール作業を行います。

1. CD/DVDからFedora Coreインストーラーを起動します。(6ページ参照)
2. グラフィカルモードでデュアルブート構成でインストールします。(19ページ参照)
3. ファーストブートにより初期設定を行います。(49ページ参照)
4. グラフィカルなアップデート作業を行います。(54ページ参照)

3.3 サーバーのOSとして利用する場合

常時接続なのでFedora Coreでサーバーを構築してみたい方
Linuxのサーバーアプリケーションを勉強したい方
は以下の手順でインストール作業を行います。

1. CD/DVDからFedora Coreインストーラーを起動します。(6ページ参照)
2. グラフィカルモードでデュアルブート構成でインストールします。(34ページ参照)
3. コマンドラインによるアップデート作業を行います。(60ページ参照)

4. 起動

4.1 CD/DVDからの起動

- (1) コンピューターを起動
- (2) インストール・メディアをCD-ROMドライブに挿入
- (3) ブートローダーの起動



- 1) しばらく待つとブートローダーが起動し、「boot: _」というプロンプトが出ます。
- 2) グラフィカルモードでインストールしたい場合、Enterキーを押します。
- 3) テキストモードでインストールしたい場合、「linux text」と入力しEnterキーを押します。

4.2 ブートローダーの主なオプション

ブートローダーのオプション一覧	
起動モード	説明
linux text	テキストモードで起動します。
linux askmethod	テキストモードで起動し、インストール方法(CD/HDD/NFS/FTP/HTTP)を選べます。
linux rescue	レスキューモードで起動します。
linux mediacheck	メディアチェックを行います。
linux vnc	VNCモードで起動します。(後述)
memtest86	メモリーテスターが起動します。
ハードウェア認識に関するオプション	説明
noprobe	ハードウェアの検出を行いません。
nofb	フレームバッファを無効にします。
resolution=<width>x<height>	画面の解像度を指定します。
nousb	USBを無効にします。
nofirewire	Firewire(IEEE1394)を無効にします。
nocmci	PCMCIAを無効にします。
apm=off	APM機能を無効にします。
acpi=off	ACPI機能を無効にします。
ファイルシステムに関するオプション	説明
reiserfs	ReiserFSを選択可能にします。
xfs	XFSを選択可能にします。
jfs	JFSを利用可能にします。
システムに関するオプション	説明
selinux	SELinuxを有効化します。

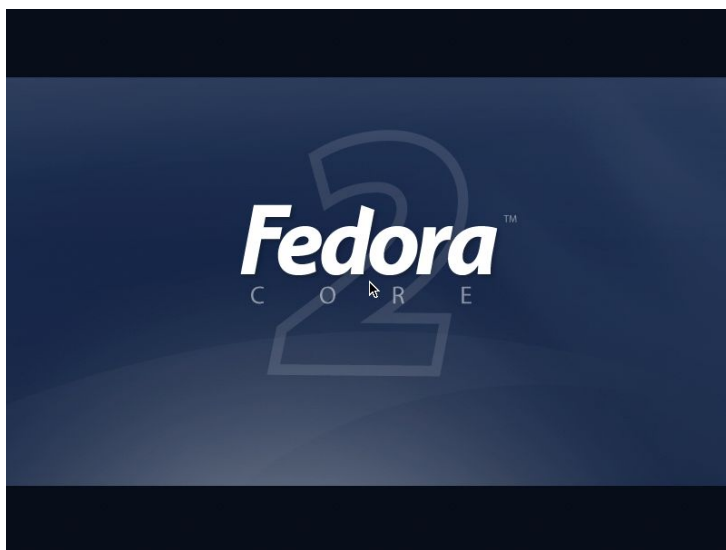
5. グラフィカルモード

5.1 クリーンインストールの場合(自動パーティショニング、DHCPによるネットワーク設定)

*このセクションは、ハードディスクにOSが何も入っていない環境を前提として書かれています。



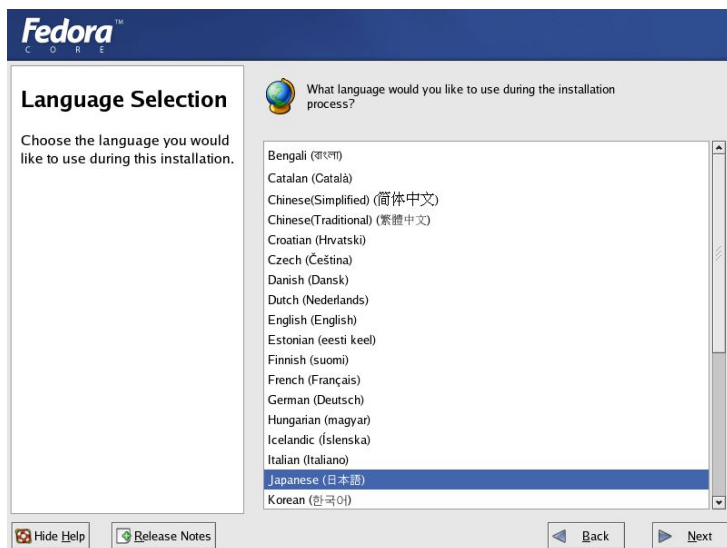
- 1) 起動するとメディア・チェックを行うかどうか聞かれますので、「Skip」を選び「Enter」キーを押します。



- 2) グラフィックモードで起動している時、Fedoraのロゴと、カーソルが出ます。



- 3) Welcome to Fedora Coreは、「Next」をクリックします。
もし、この画面が出ない場合、テキストモード・インストールをお試しください。



- 4) 言語の選択は、「Japanese(日本語)」を選択し、「Next」をクリックします。



5) キーボードの設定は、「Japanese」を選択し、「次へ」をクリックします。



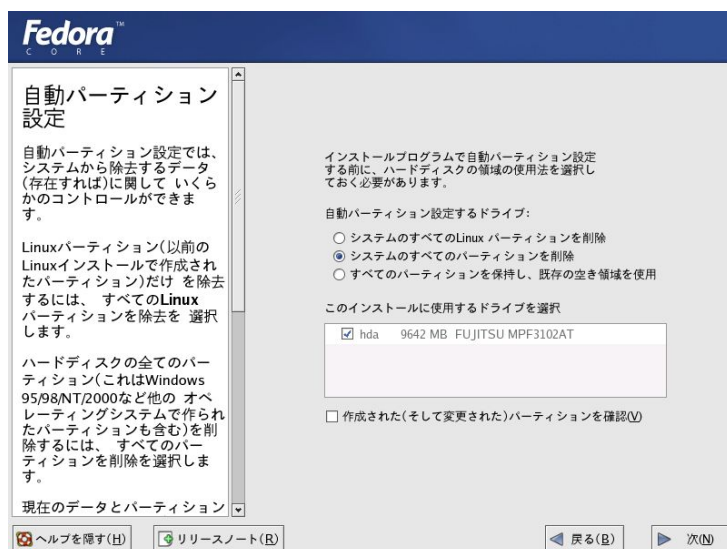
6) モニターの設定で、モニターが自動検出されなかった場合、手動で選択します。
 メーカーが不明だったり、型番の一致するものが無い場合、
 ブラウン管モニターを利用している場合は、「Generic CRT Display」から選択します。
 液晶モニターを利用している場合、「Generic LCD Display」から選択します。



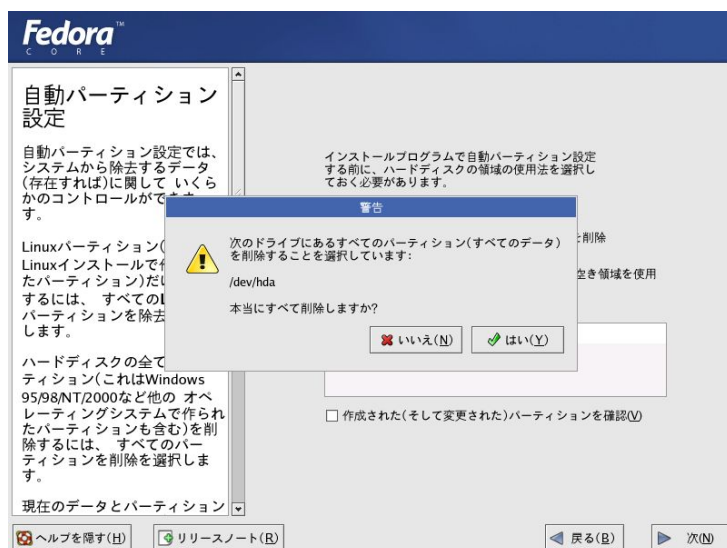
- 7) インストールの種類は、「パーソナルデスクトップ」を選択して、「次へ」をクリックします。
- * 「パーソナルデスクトップ」ではWebブラウザ、オフィスソフト、グラフィックソフトなどよく利用するソフトウェアがインストールされます。
 - * 「ワークステーション」では、「パーソナルデスクトップ」でインストールされるソフトウェアに加え、C、C++、Perlなどのアプリケーション開発環境がインストールされます。
 - * 「サーバー」では、Apache、Postfix、Sambaなど、よく使われるサーバーアプリケーションがインストールされます。
 - * 「カスタム」は上級者向けの選択肢です。インストールするパッケージが明確な場合にのみ選択します。



- 8) ディスクパーティションの設定は、「自動パーティション設定」を選択し、「次へ」をクリックします。



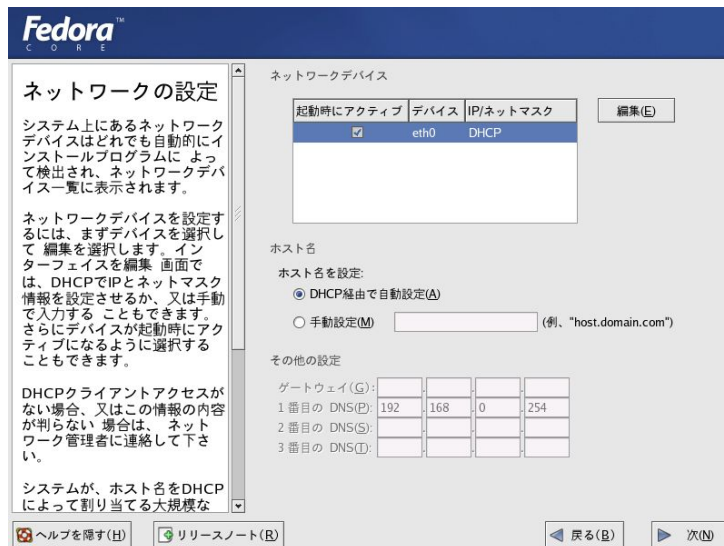
- 9) 自動パーティション設定は、「システムのすべてのパーティションを削除」を選択し、「次へ」をクリックします。



- 10) 警告が出ますがハードディスクに何も残すつもりは無いので、「はい」をクリックします。



11)ブートローダーの設定は、「次へ」をクリックします。



12)ネットワークの設定は、「次へ」をクリックします。

なお、コンピューターにLANカードが装着されていないか、カードが認識できなかったりするとネットワークの設定は出ない場合があります。



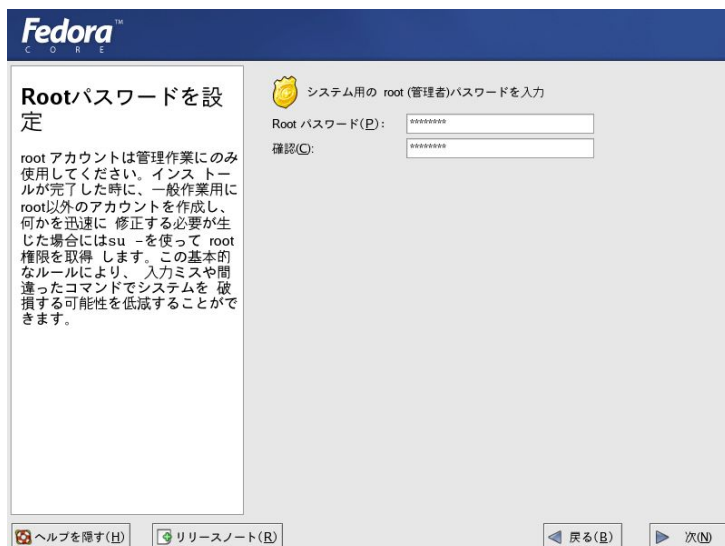
13) ファイアウォール設定は、「ファイアウォールを有効にする」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



14) 追加の言語サポートでは、「Japanese」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



- 15)タイムゾーンの選択では、「アジア/東京」を選択し、「次へ」をクリックします。
 「システムクロックでUTCを使用」にチェックを入れるとグリニッジ時刻で動作します。
 今回はチェックしませんが、Fedora Coreだけしか使わない場合、チェックしても結構です。



- 16)Rootパスワードの設定では、「Rootパスワード」と「確認」に同じパスワードを入力します。
 入力が完了しましたら、「次へ」をクリックします。
 * なお、入力文字は「****」と表示されます。
 * Rootパスワードは、わかりにくいパスワードを入力してください。
 わかりやすいパスワードの場合、システムが乗っ取られる可能性があるのでご注意ください。



17)「デフォルトのソフトウェアをインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。



18) インストール準備が完了したら、「次へ」をクリックします。



19) 必要なインストールメディア一覧が出ますので、「続行」をクリックします。



20) ファイルシステムのフォーマット、インストールイメージの転送などが行われます。利用される環境によりますが、このまま30分程待ちます。



- 21) ディスク2を要求するダイアログが出ましたら、CDドライブのトレイを開け、ディスク2に取り替え、ふたを閉め「OK」をクリックします。



- 22) ディスク3を要求するダイアログが出ましたら、CDドライブのトレイを開け、ディスク3に取り替え、ふたを閉め「OK」をクリックします。



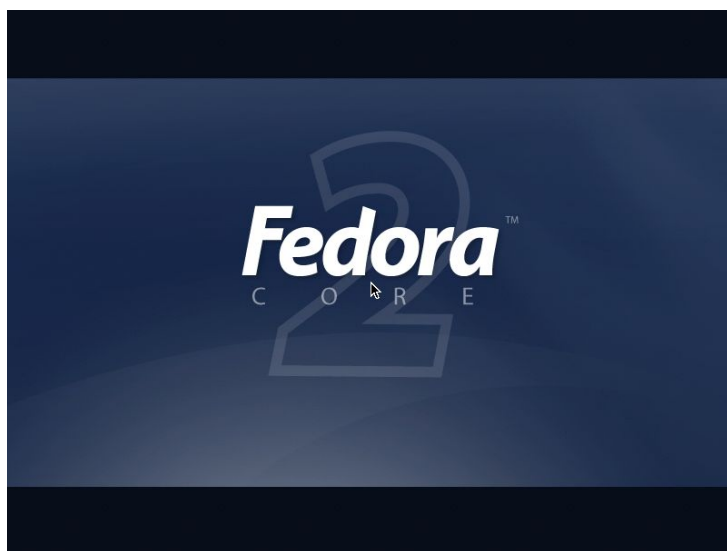
- 23) インストールが完了しましたら、「再起動」をクリックします。
次に「8.1 ファーストブートによる初期設定(49ページ参照)」へ移ります。

5.2 Windowsとのデュアルブートの場合(手動パーティショニング、手動ネットワーク設定)

- * このセクションは、ハードディスクの基本パーティション1にWindowsが入っており、Fedora Coreを基本パーティション2に入れるという事を前提として書かれています。
- * 空きパーティションがない場合、KNOPPIX日本語版(<http://unit.aist.go.jp/it/knoppix/>)に入っているQtParted(<http://qtparted.sourceforge.net/>)などでパーティションを確保します。
なお、空きパーティションの確保の手順は、このマニュアルの対象範囲ではありません。



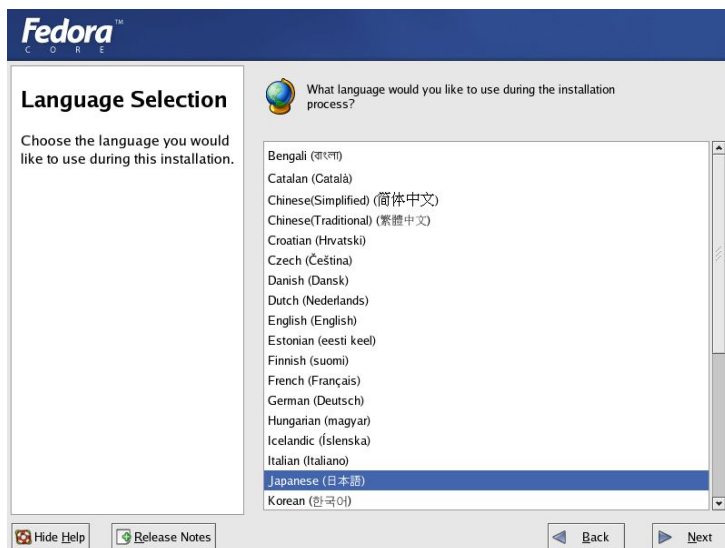
- 1) 起動するとメディア・チェックを行うかどうか聞かれますので、「Skip」を選び「Enter」キーを押します。



- 2) グラフィックモードで起動している時、Fedoraのロゴと、カーソルが出ます。



- 3) Welcome to Fedora Coreは、「Next」をクリックします。
もし、この画面が出ない場合、テキストモード・インストールをお試しください。



- 4) 言語の選択は、「Japanese(日本語)」を選択し、「Next」をクリックします。



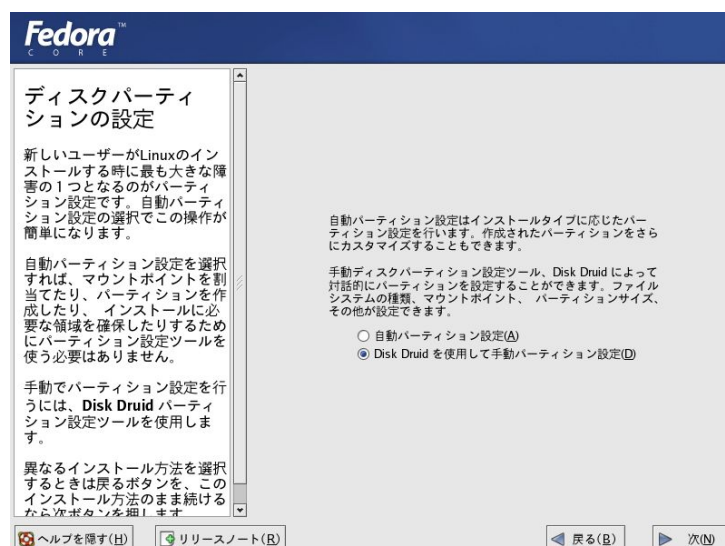
5) キーボードの設定は、「Japanese」を選択し、「次へ」をクリックします。



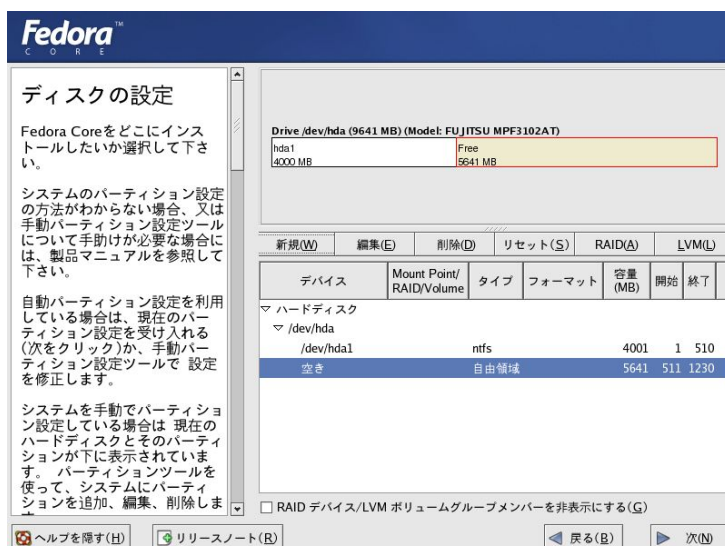
6) モニターの設定で、モニターが自動検出されなかった場合、手動で選択します。メーカーが不明だったり、型番の一致するものが無い場合、ブラウン管モニターを利用している場合は、「Generic CRT Display」から選択します。液晶モニターを利用している場合、「Generic LCD Display」から選択します。



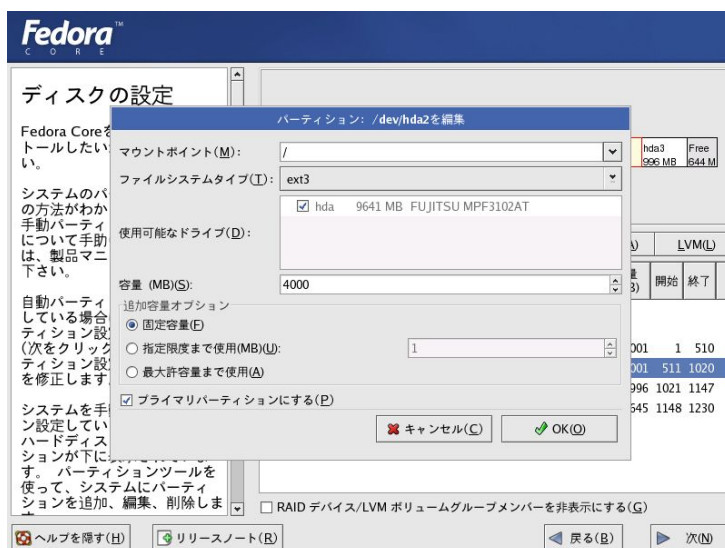
- 7) インストールの種類は、「パーソナルデスクトップ」を選択して、「次へ」をクリックします。
- * 「パーソナルデスクトップ」ではWebブラウザ、オフィスソフト、グラフィックソフトなどよく利用するソフトウェアがインストールされます。
 - * 「ワークステーション」では、「パーソナルデスクトップ」でインストールされるソフトウェアに加え、C、C++、Perlなどのアプリケーション開発環境がインストールされます。
 - * 「サーバー」では、Apache、Postfix、Sambaなど、よく使われるサーバーアプリケーションがインストールされます。
 - * 「カスタム」は上級者向けの選択肢です。インストールするパッケージが明確な場合にのみ選択します。



- 8) ディスクパーティションの設定は、「Disk Druidを使用して手動パーティション設定」を選択し、「次へ」をクリックします。



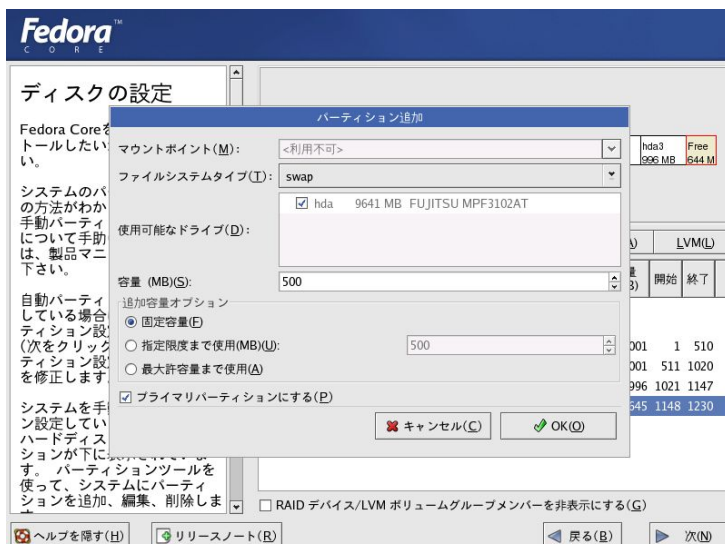
- 9) ディスクの設定では、画面中央の「空き」という項目を選択し、「新規」をクリックします。この作業を「/」、「/home」、「swap」と3回行います。



- 10) まず、「/(root)パーティション」を作成します。マウントポイントに「/」と入力し、「ファイルシステムタイプ」は「ext3」を選択します。今回、「容量(MB)」は「4000」にしました。「固定容量」を選択、「プライマリパーティションにする」にチェックをし、「OK」をクリックします。



- 11)「/home」を作成します。マウントポイントに「/home」と入力し、「ファイルシステムタイプ」は「ext3」を選択します。今回、「容量(MB)」は「1000」にしました。「固定容量」を選択、「プライマリーパーティションにする」にチェックをし、「OK」をクリックします。



- 12)最後に「swap」を作成します。ファイルシステムタイプは「swap」を選択します。「容量(MB)」に「500」と入力し、「固定容量」を選択、「プライマリーパーティションにする」にチェックをし、「OK」をクリックします。
- * swapパーティションの最適なサイズは、コンピューターの使い次第ですが、大まかな目安として、「500MB - 実メモリサイズ(MB) = 必要なswapパーティションサイズ(MB)」という計算式で求めて頂ければよろしいかと思います。
 - 実メモリを512MB以上搭載しているコンピューターにはswapパーティションは不要です。



ディスクの設定

Fedora Coreをどこにインストールしたいか選択して下さい。

システムのパーティション設定の方法がわからない場合、又は手動パーティション設定ツールについて手助けが必要な場合には、製品マニュアルを参照して下さい。

自動パーティション設定を利用している場合は、現在のパーティション設定を受け入れる(次をクリック)か、手動パーティション設定ツールで設定を修正します。

システムを手動でパーティション設定している場合は、現在のハードディスクとそのパーティションが下に表示されています。パーティションツールを使って、システムにパーティションを追加、編集、削除します。

Drive /dev/hda (9641 MB) (Model: FUJITSU MPF3102AT)

デバイス	Mount Point/RAID/Volume	タイプ	フォーマット	容量 (MB)	開始	終了
ハードディスク						
▼ /dev/hda						
/dev/hda1		ntfs		4001	1	510
/dev/hda2	/	ext3	✓	4001	511	1020
/dev/hda3	/home	ext3	✓	996	1021	1147
/dev/hda4		swap	✓	502	1148	1211
空き		自由領域		143	1212	1230

RAID デバイス/LVM ボリュームグループメンバーを非表示にする (G)

ヘルプを隠す(H) リリースノート(R) 戻る(B) 次(N)

13) 必要なパーティションの割り振りが終了しましたら、「次へ」をクリックします。



ブートローダーの設定

GRUB ブートローダーは、/dev/hda 上にインストールされます。

他のオペレーティングシステムがブートできるようにブートローダーを設定できます。これによりリスト内からブートするオペレーティングシステムを選択できる様になります。自動的に認識されない他のオペレーティングシステムを追加するには、「追加」をクリックします。デフォルトでブートするオペレーティングシステムを変更するには、目的のオペレーティングシステムの前「デフォルト」を選択します。

デフォルト	ラベル	デバイス	追加(A)
<input type="checkbox"/>	Other	/dev/hda1	<input type="button" value="編集(E)"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	Fedora Core	/dev/hda2	<input type="button" value="削除(D)"/>

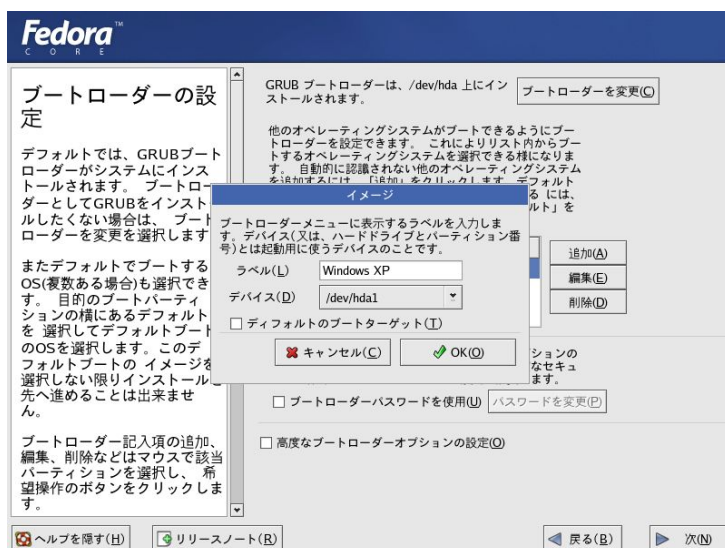
ブートローダーパスワードによってユーザがオプションの変更をカースルに直すことを防ぎます。より高度なセキュリティ確保のためにはパスワードの設定を推奨します。

ブートローダーパスワードを使用(U)

高度なブートローダーオプションの設定(O)

ヘルプを隠す(H) リリースノート(R) 戻る(B) 次(N)

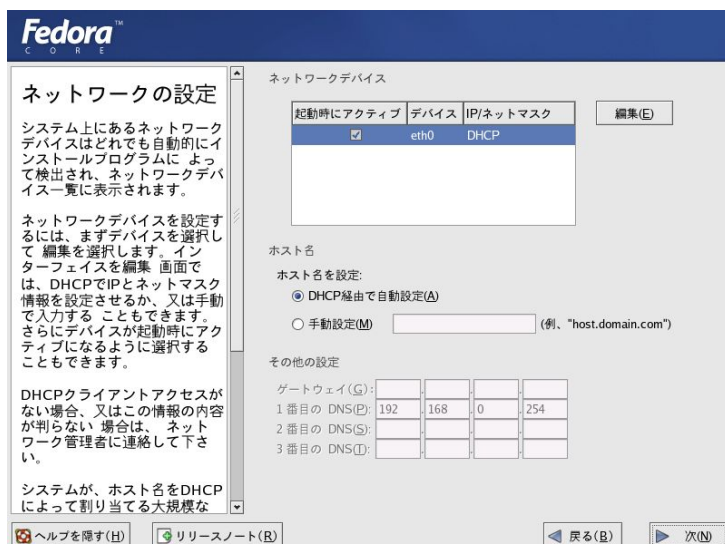
14) ブートローダーの設定は、「Other」というラベルをクリックし、「編集」をクリックします。
* ラベルが「Other」のままであれば、16)まで進んで頂いて結構です。



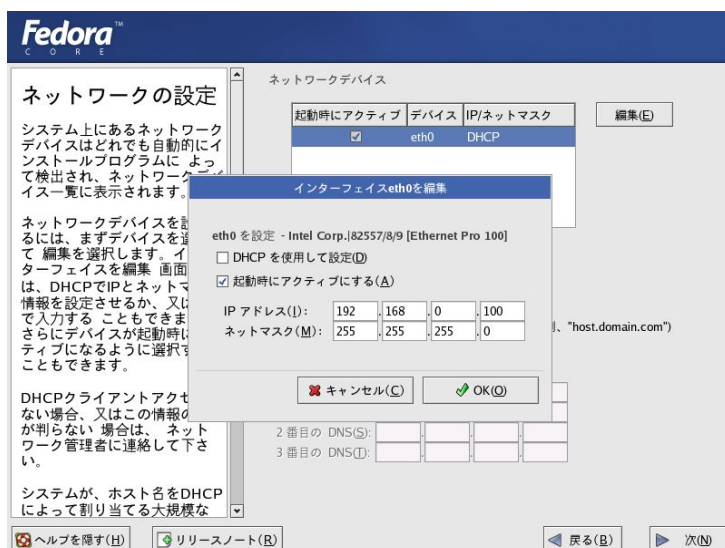
15)「ラベル」を「Windows XP」と変更し、「OK」をクリックします。



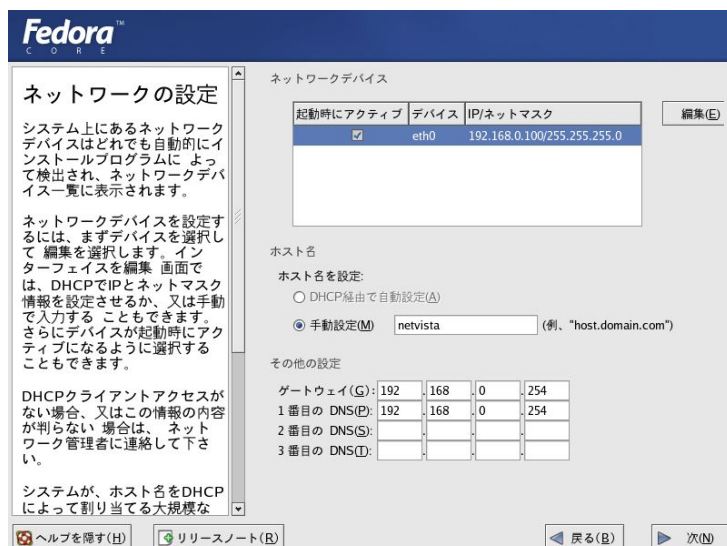
16) 通常起動したいOSの「デフォルト」という項目にチェックをし、「次へ」をクリックします。



- 17) ネットワークの設定を手動で行います。デバイス「eth0」を選び、「編集」をクリックします。
 * 今回、手動ネットワーク設定を説明していますが、すでにDHCP環境がある場合、「5.1 クリーンインストールの場合 (12ページ参照)」の自動ネットワーク設定を行って頂いて結構です。



- 18) 「DHCPを使用して設定」のチェックをはずし、「起動時にアクティブにする」はチェック状態で、「IPアドレス」と「ネットマスク」を入力し、「OK」をクリックします。



- 19) 先程の画面から戻りましたら、「ホスト名を設定」を「手動設定」に選択し、入力項目にホスト名を入力します。また、「ゲートウェイ」には、自分が所属するLANのルーターのIPアドレスを入力し、「1番目のDNS」にはネームサーバーのIPアドレスを入力します。すべて入力し終わったら、入力ミスがないか確認し、「次へ」をクリックします。



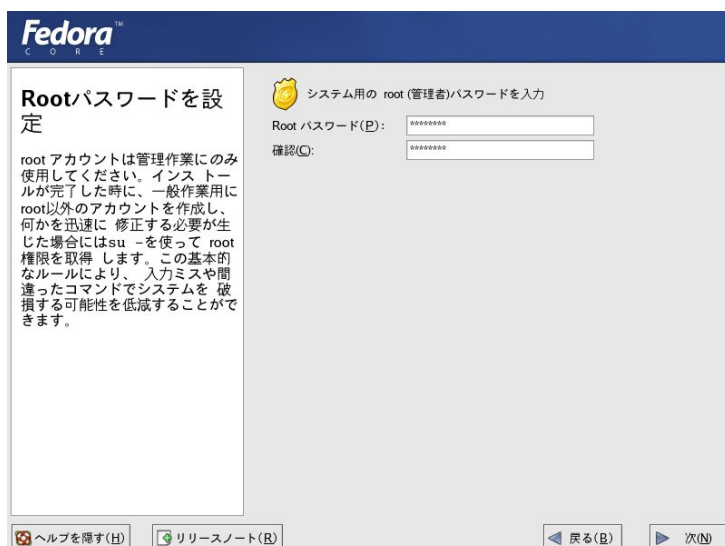
- 20) ファイアウォール設定は、「ファイアウォールを有効にする」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



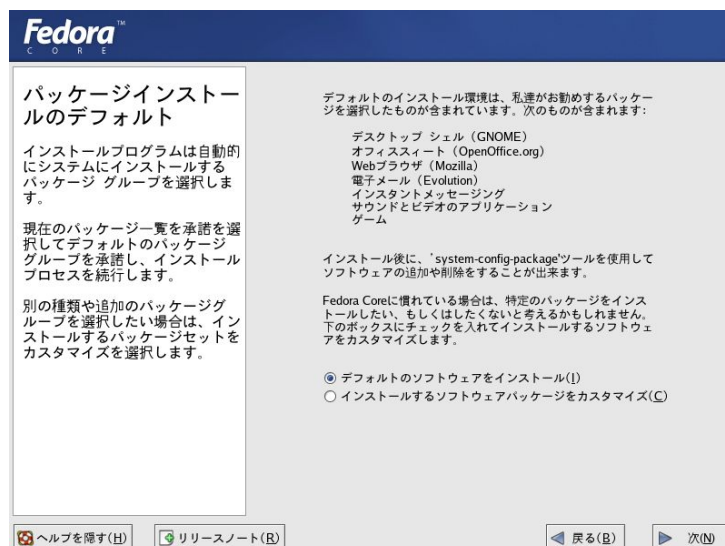
21) 追加の言語サポートでは、「Japanese」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



22) タイムゾーンの選択では、「アジア/東京」を選択し、「次へ」をクリックします。「システムクロックでUTCを使用」にチェックを入れるとグリニッジ時刻で動作します。Windows環境との共存を行う場合はチェックしません。



- 23) Rootパスワードの設定では、わかりにくいパスワードを入力してください。
 「Rootパスワード」と「確認」に同じパスワードを入力します。入力文字は「****」と表示されます。
 わかりやすいパスワードの場合、システムが乗っ取られる可能性があるのでご注意ください。



- 24) 「デフォルトのソフトウェアをインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。



25) インストール準備が完了したら、「次へ」をクリックします。



26) 必要なインストールメディア一覧が出ますので、「続行」をクリックします。



27) ファイルシステムのフォーマット、インストールイメージの転送などが行われます。利用される環境によりませんが、このまま30分程待ちます。



28) ディスク2を要求するダイアログが出ましたら、CDドライブのトレイを開け、ディスク2に取り替え、ふたを閉め「OK」をクリックします。



- 29) ディスク3を要求するダイアログが出ましたら、CDドライブのトレイを開け、ディスク3に取り替え、ふたを閉め「OK」をクリックします。



- 30) インストールが完了しましたら、「再起動」をクリックします。
次に「8.1 ファーストブートによる初期設定(49ページ参照)」へ移ります。

6. テキストモード

6.1 クリーンインストールの場合(手動パーティショニング、手動ネットワーク設定)

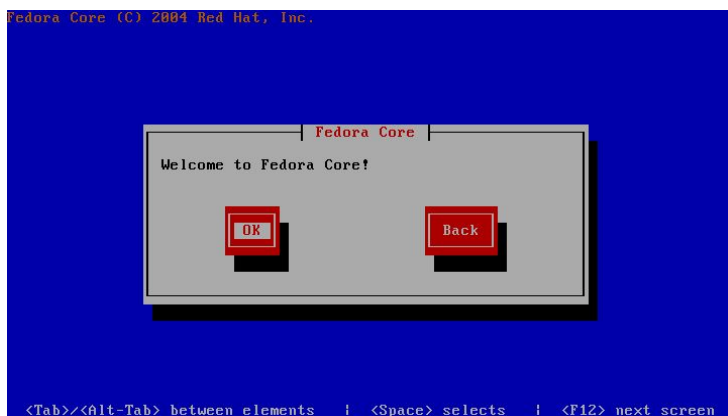
*このセクションは、ハードディスクにOSが何も入っていない環境を前提として書かれています。



1) ブートローダーのプロンプトで「linux text」と入力し、「Enter」キーを押します。



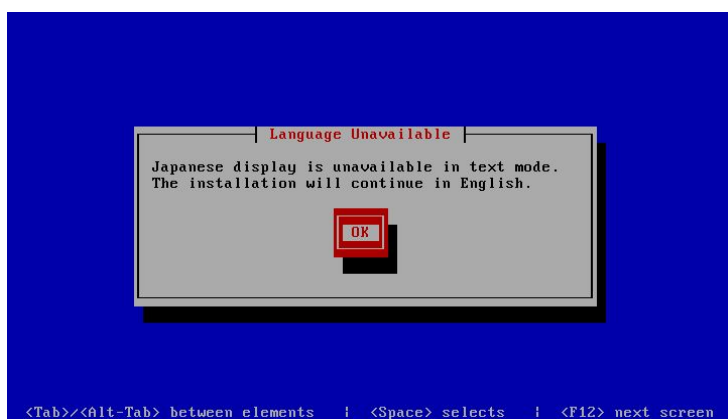
2) 起動するとメディア・チェックを行うかどうか聞かれますので、「Skip」を選び「Enter」キーを押します。



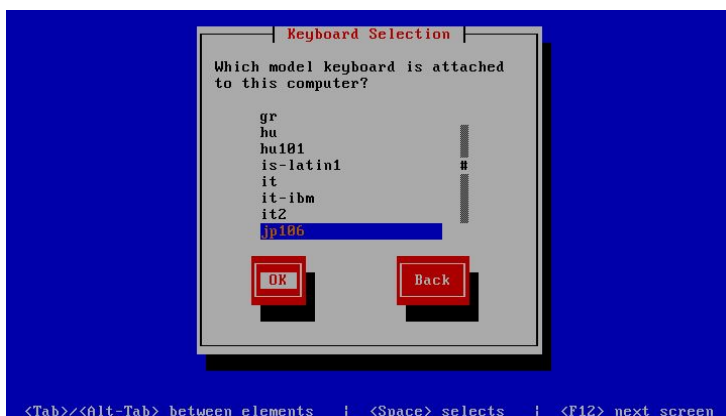
3) Welcome画面は、「OK」で「Enter」キーを押します。



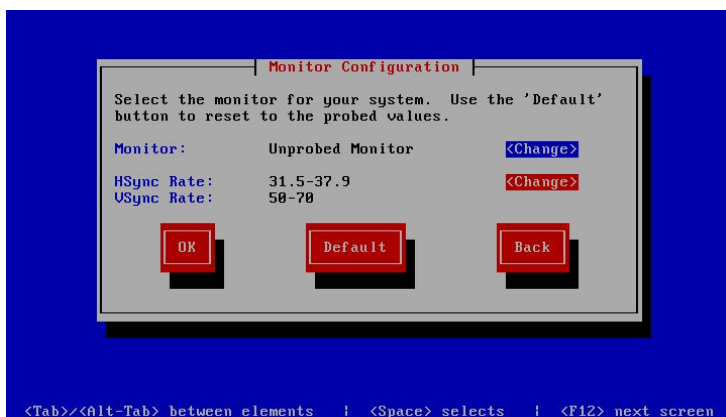
4) 言語選択画面は「Japanese」を選択し、「OK」で「Enter」キーを押します。



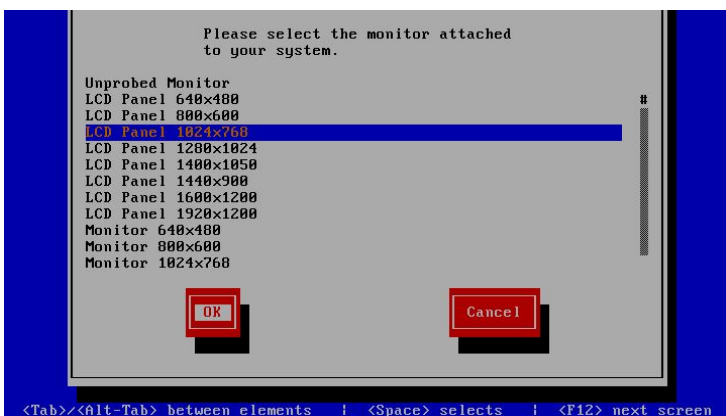
5) 「テキストモードでは日本語が表示できず、インストールは英語で続行します。」と言われるので、「OK」で「Enter」キーを押します。



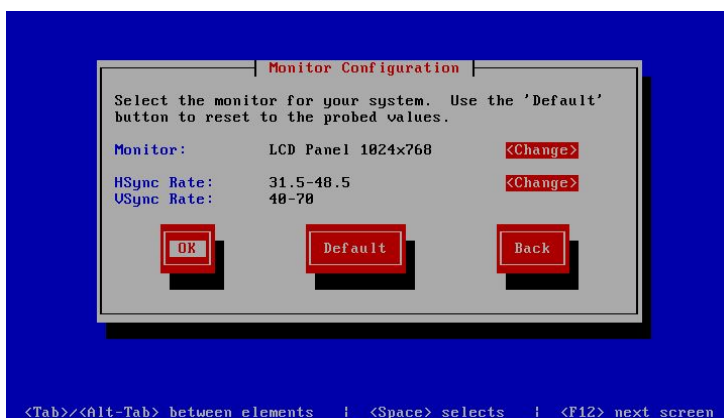
6) キーボード選択画面では、「jp106」を選択し、「OK」で「Enter」キーを押します。



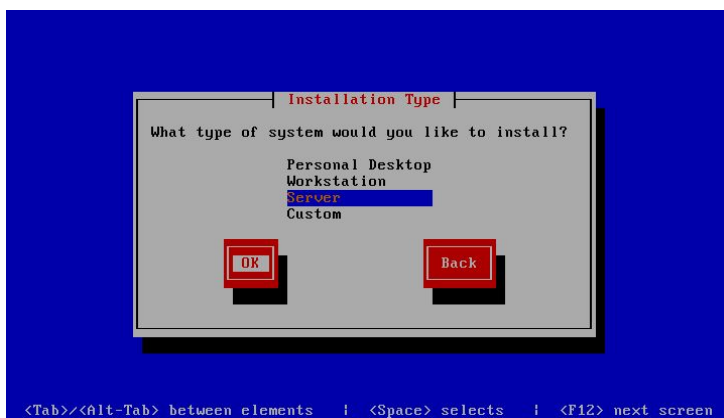
7) ディスプレイ設定画面では「Monitor」の「<Change>」を選択し、「Enter」キーを押します。



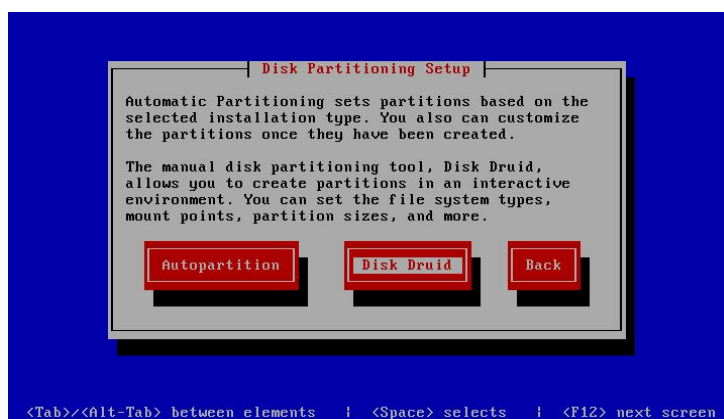
8) ディスプレイ一覧から、「LCD Panel 1024x768」を選択し、「OK」で「Enter」キーを押します。



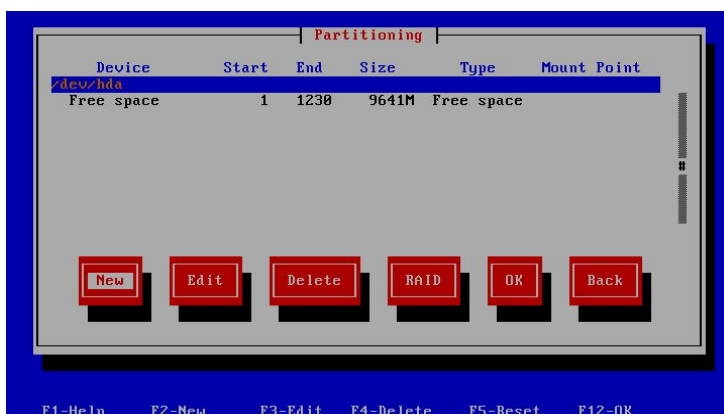
9) ディスプレイ設定が終了しましたら、「OK」で「Enter」キーを押します。



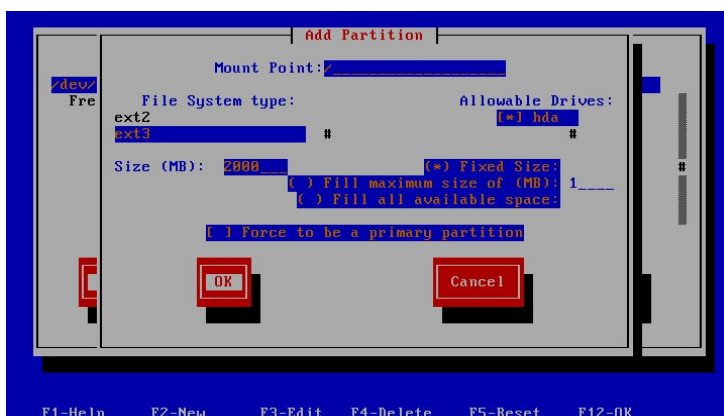
10) インストールタイプは「Server」を選択し、「OK」で「Enter」キーを押します。



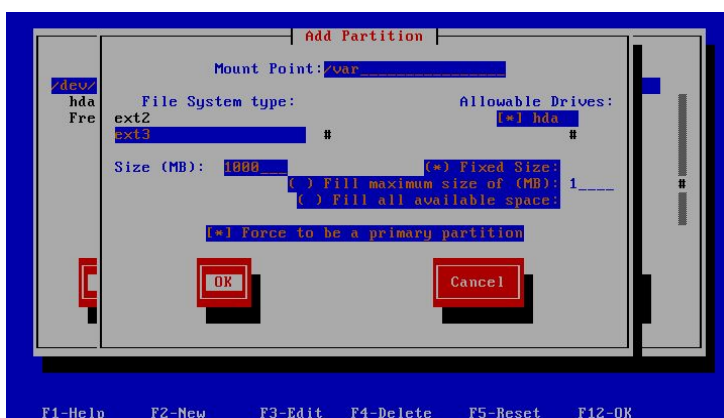
11) パーティション設定画面では「Disk Druid」を選択し、「Enter」キーを押します。



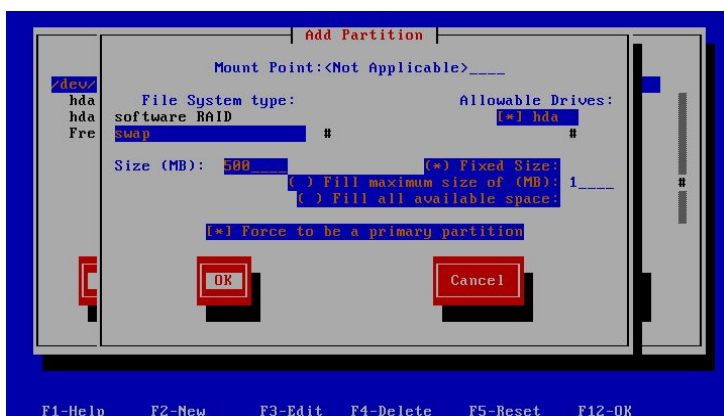
- 12) パーティション一覧画面で「New」を選択し、「Enter」キーを押します。
* 今回、この作業を4回行います。



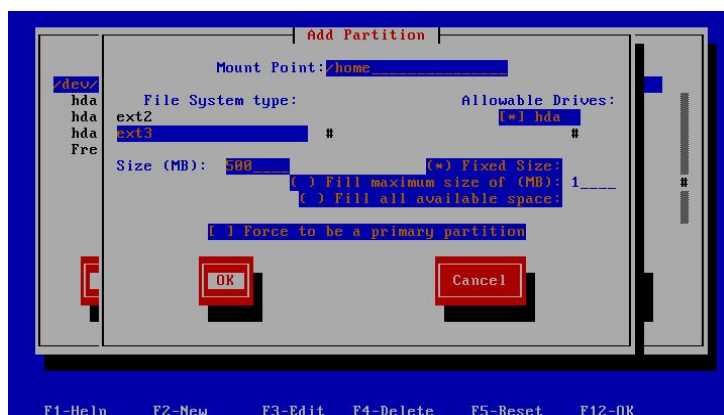
- 13) パーティション追加画面で「Mount Point」に「/」と入力し、「File System type」で「ext3」を選択、「Size(MB)」に「2000」と入力し、「Fixed Size」にチェック入っていることを確認し、「Enter」キーを押します。



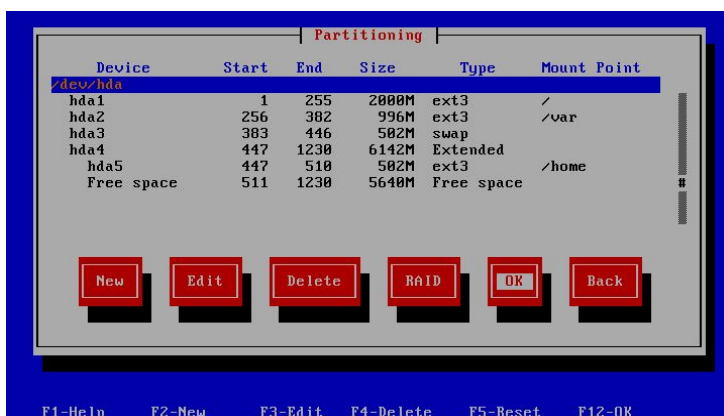
- 14) パーティション追加画面で「Mount Point」に「/var」と入力し、「File System type」で「ext3」を選択、「Size(MB)」に「1000」と入力します。「Fixed Size」と「Format in be a primary partition」にチェックが入っていることを確認し、「Enter」キーを押します。



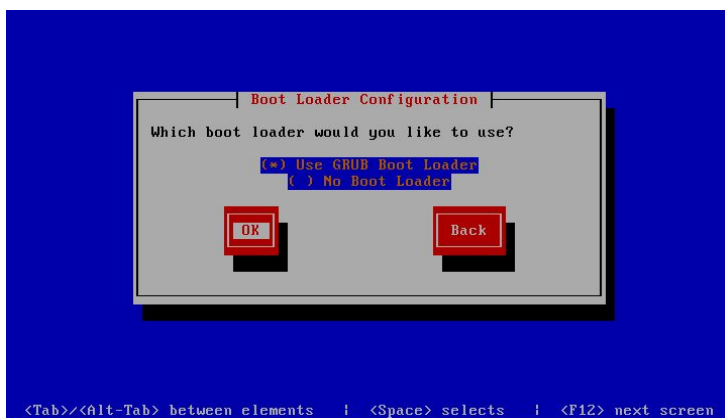
- 15) パーティション追加画面の「File System type」で「swap」を選択、「Size(MB)」に「500」と入力します。「Fixed Size」と「Format in be a primary partition」にチェックが入っていることを確認し、「Enter」キーを押します。



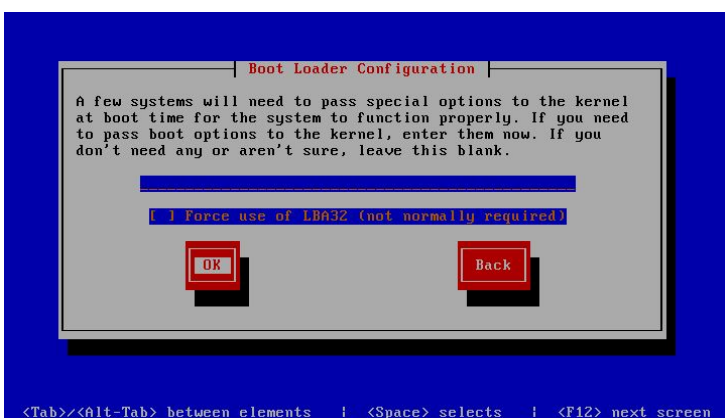
- 16) パーティション追加画面で「Mount Point」に「/home」と入力し、「File System type」で「ext3」を選択し、「Size(MB)」に「500」と入力します。「Fixed Size」にチェック入っていることを確認し、「Enter」キーを押します。



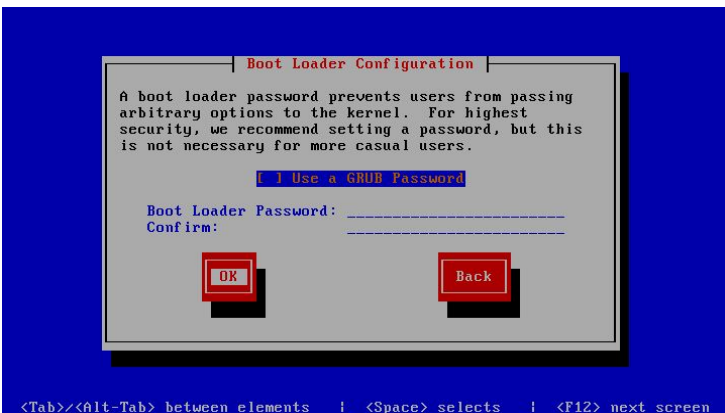
- 17) パーティション追加作業が完了しましたら、「OK」で「Enter」キーを押します。



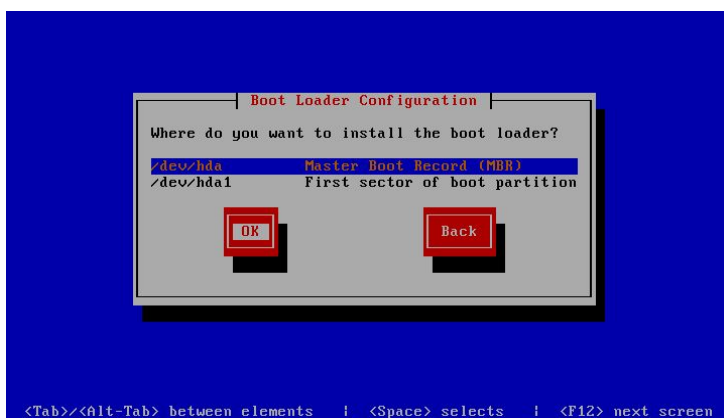
18) ブートローダーの設定画面では「Use GRUB Boot Loader」を選択し、「OK」で「Enter」キーを押します。



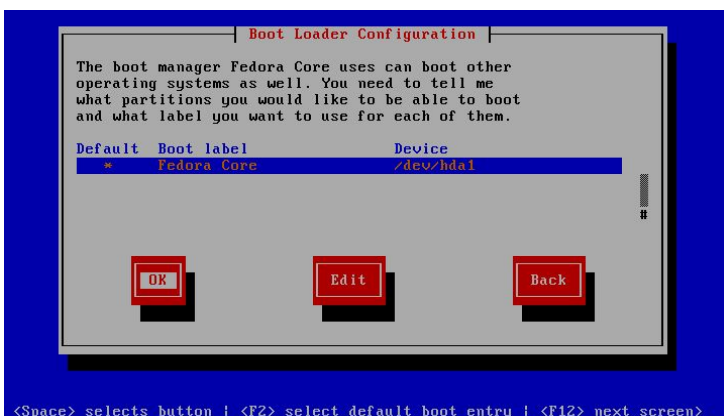
19) ブートローダーオプションの設定では、何も入力せずに「OK」で「Enter」キーを押します。



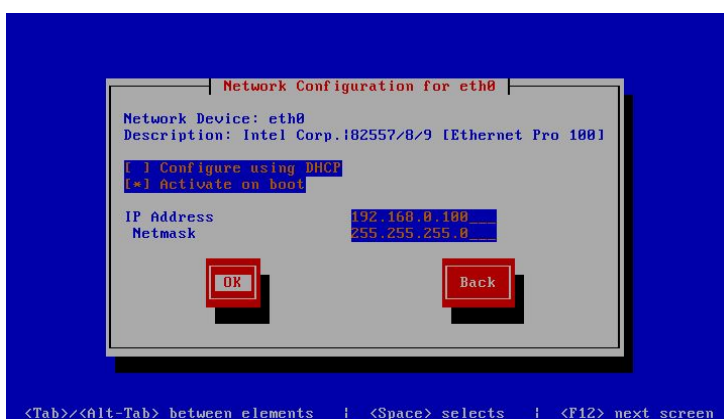
20) ブートローダーパスワードの設定では、「Use a GRUB Password」にチェックをせずに、「OK」で「Enter」キーを押します。



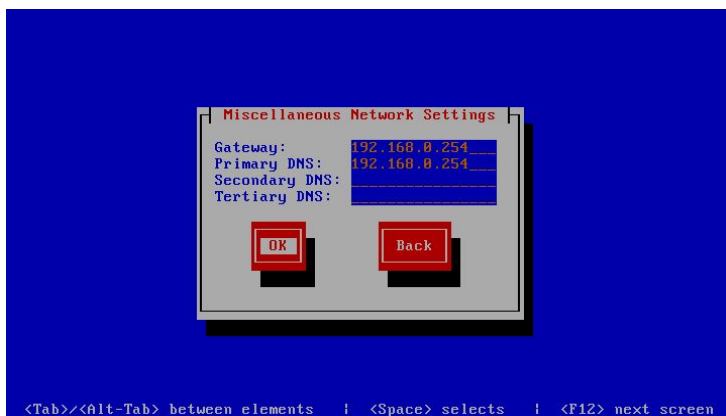
21) ブートローダーのインストール先は、「/dev/hda」を選び、「OK」で「Enter」キーを押します。



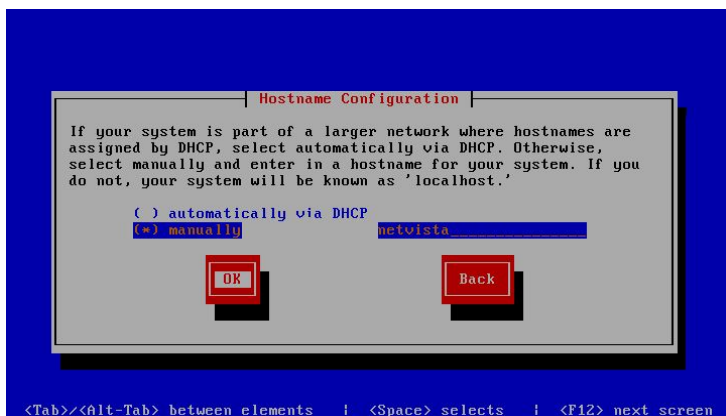
22) ブートリストに「Fedora Core」があることを確認し、「OK」で「Enter」キーを押します。



23) ネットワークの設定では、「Configure using DHCP」のチェックを外し、「Activate on boot」はチェックしたままにします。「IP Address」にコンピューターのIPアドレスを入力し、「Netmask」に所属するネットワークのサブネットマスクを入力します。入力が完了しましたら、「OK」で「Enter」キーを押します。



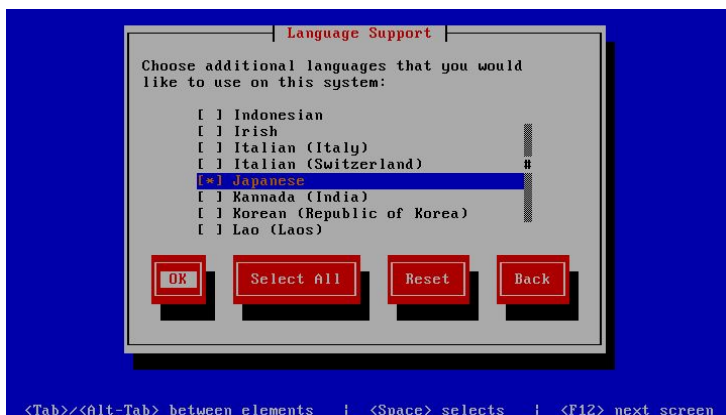
24) ネットワークの詳細設定画面では、「Gateway」にデフォルトゲートウェイを入力し、「Primary DNS」にDNSサーバーのIPアドレスを入力します。そして、「OK」で「Enter」キーを押します。



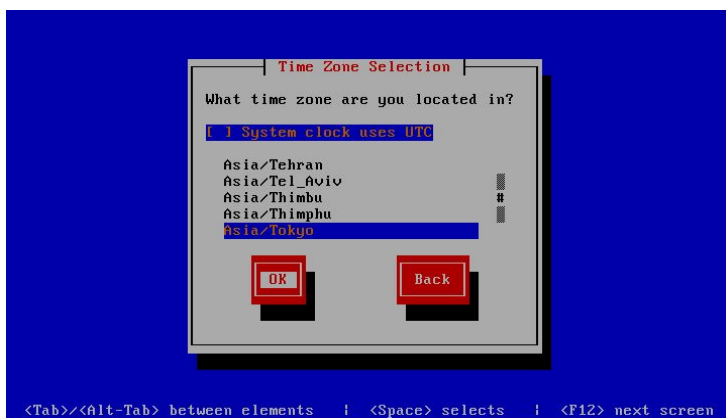
25) ホスト名設定画面では、「manually」を選択し、右側の入力項目にホスト名を入力します。そして、「OK」で「Enter」キーを押します。



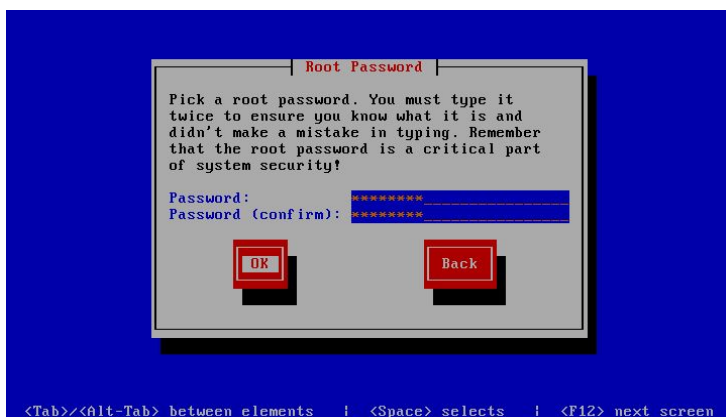
26) ファイアウォール設定画面では、「Enable Firewall」を選択し、「OK」で「Enter」キーを押します。



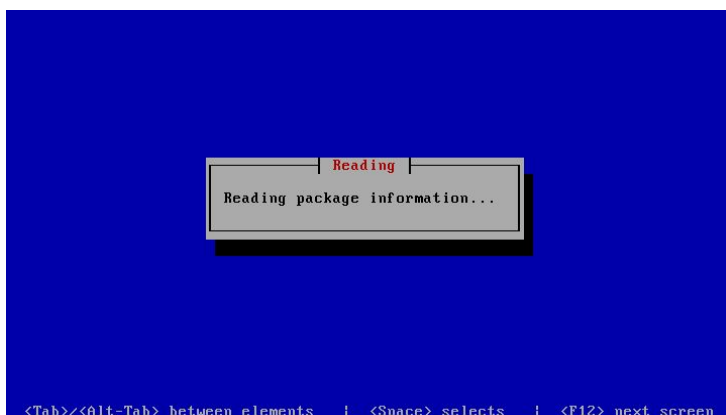
27) 追加言語選択画面では、「Japanese」が選択されていることを確認し、「OK」で「Enter」キーを押します。



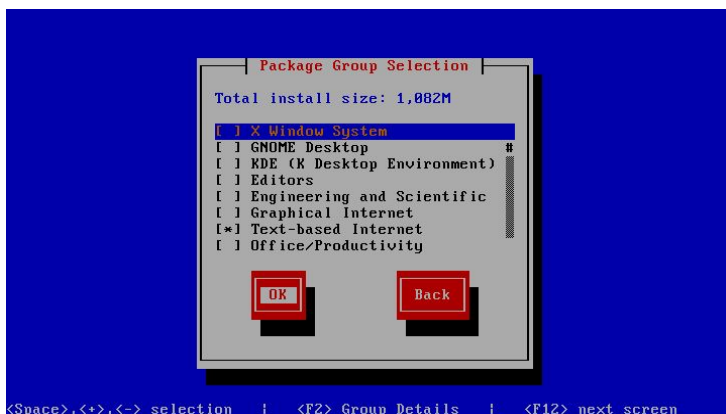
28) タイムゾーン選択画面では、「System clock uses UTC」にチェックが入っていないことを確認し、一覧から「Asia/Tokyo」を選択します。そして、「OK」で「Enter」キーを押します。



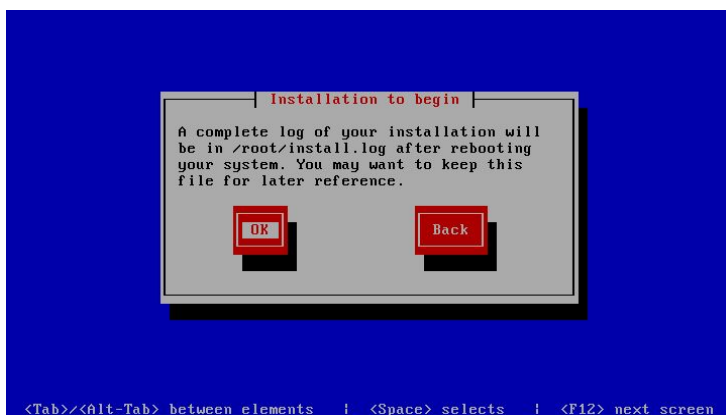
29) Rootパスワード設定画面では、「Password」と「Password (confirm)」という項目に、同じパスワードを指定し、「OK」で「Enter」キーを押します。
*なお、入力された文字は、「****」というように伏せ字で表示されます。



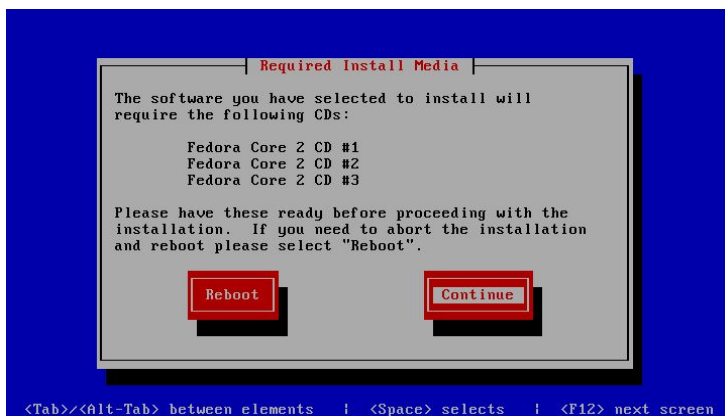
30) パッケージをインストールメディアから探索する際、しばらく待たされます。



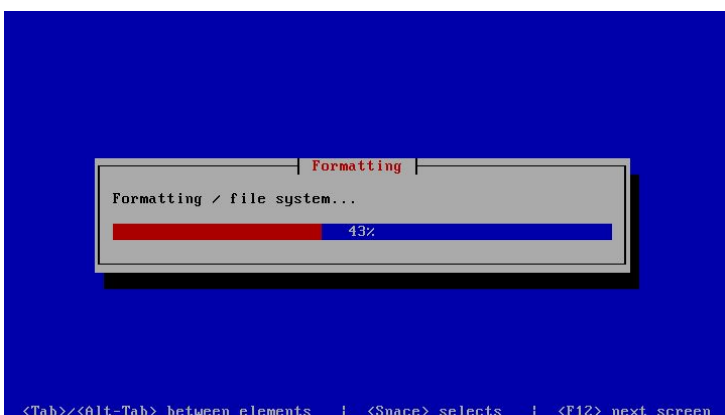
31) パッケージ一覧から、パッケージを選べます。今回はそのまま「OK」で「Enter」キーを押します。



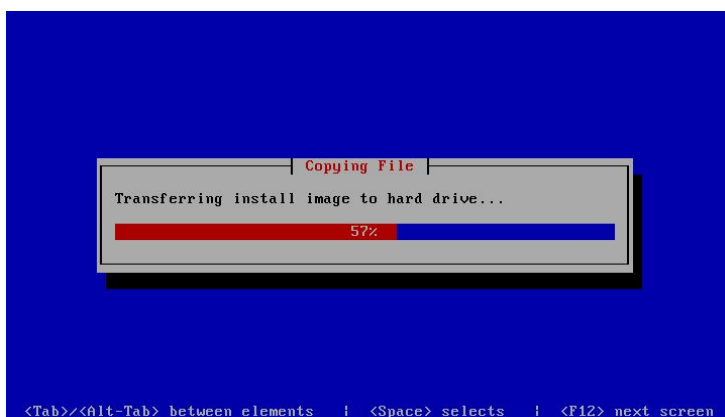
32) 「インストールが完了し再起動した際、/root/install.logにインストールしたパッケージが一覧されますので、このファイルは保持ください。」と出ます。「OK」で「Enter」キーを押します。



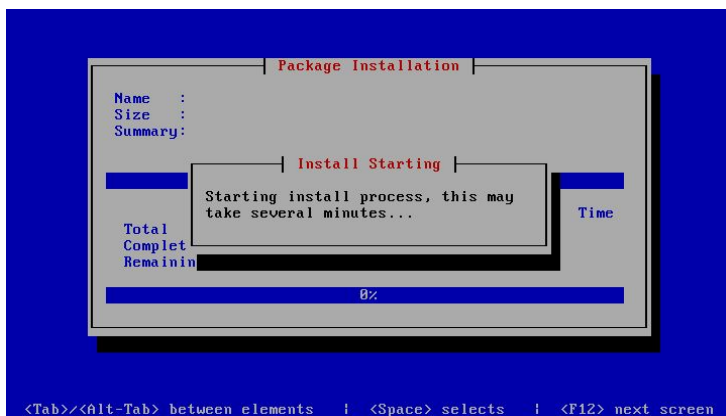
33) インストールに必要なメディアが一覧されます。「Continue」を選び、「Enter」キーを押します。



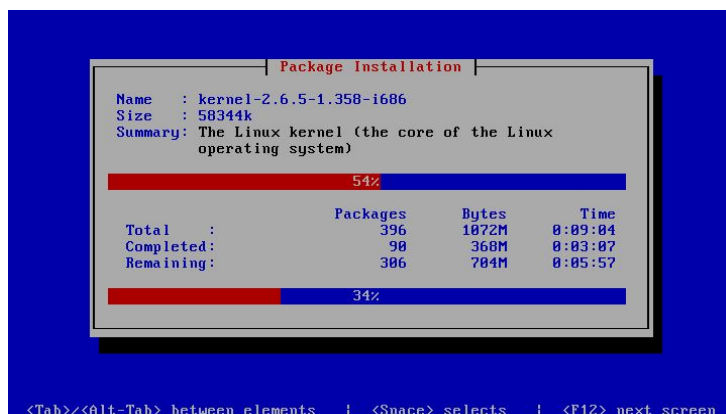
34) フォーマット処理が行われますので、しばらく待ちます。



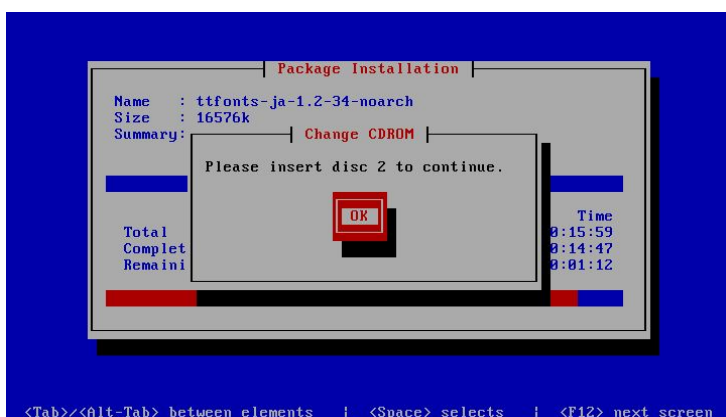
35) システムファイルの転送が行われますので、しばらく待ちます。



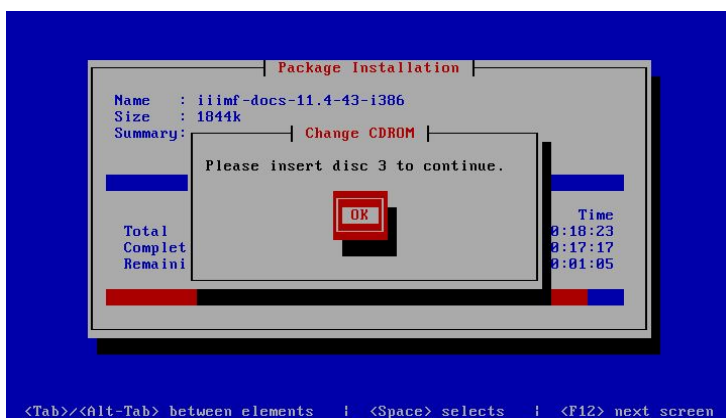
36) パッケージのインストール順序を考えています。しばらく待ちます。



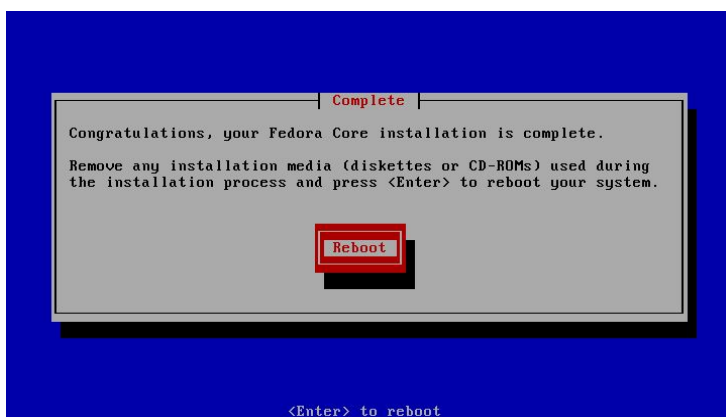
37) パッケージのインストールがはじまります。ディスクを交換するメッセージが出るまで待ちます。



38) ディスク1をコンピューターから取りだし、ディスク2を入れ、「OK」で「Enter」キーを押します。



39) ディスク2をコンピューターから取りだし、ディスク3を入れ、「OK」で「Enter」キーを押します。



40) インストールが完了したというメッセージが出ましたら、「Reboot」で「Enter」キーを押します。次に「9.2 コマンドラインによるアップデート作業(60ページ参照)」へ移ります。

7. VNCモード

7.1 クライアントPCに画面を転送する場合

VNCモードはカラーディスプレイがないサーバマシンや、マウスがついていないマシン、VMwareやVirtual PCにFedora Coreをインストールしたい場合などに便利です。

- 1) クライアントPCにて以下のコマンドを実行します。

```
$ vncviewer -listen
```

ファイアウォールを有効にしている場合、TCPポート5500番を事前に許可にします。

- 2) ブートローダーのプロンプトで以下のように実行します。

```
linux vnc vncconnect=<Client PC's IP Address>:5500
```

* 一度、ネットワークが切断されるとインストール作業を最初からやり直す必要があります。

- 3) クライアントPCにてインストール作業

あとはグラフィカルモードと同じ画面です。

6.2 インストールマシンへ接続する場合

- 1) ブートローダーのプロンプトで以下のように実行します。

```
linux vnc
```

言語選択、キーボード選択、ネットワーク設定を行ったあと、画面に接続するIPアドレスと画面番号が出ます。

* デフォルトではパスワードが要求されないため、セキュリティが非常に弱い状態になります。

```
「linux vnc vncpassword=<password>」
```

という具合に設定するとパスワード付きアクセスモードになります。

- 2) クライアントPCにて以下のコマンドを実行します。

```
$ vnc <IP Address>:1
```

* 一度、ネットワークが切断されても途中からやり直せます。

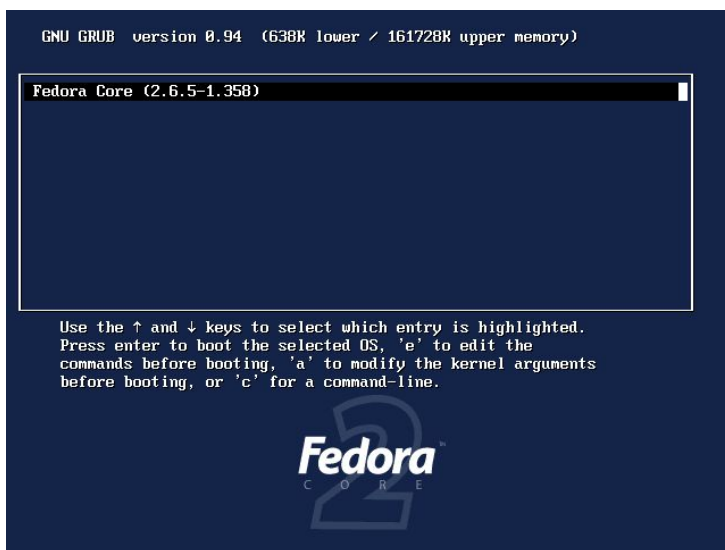
- 3) クライアントPCにてインストール作業

あとはグラフィカルモードと同じ画面です。

8. ファーストブート

8.1 ファーストブートによる初期設定

*このセクションは、グラフィカルインストールを行った場合の初回起動時を前提として書かれています。



1) Fedora Coreのインストールが成功すると、GRUBというブートローダーが起動します。

「Fedora Core (2.6.5-1.358)」を選択し、「Enter」キーを押します。

*この画面はコンピューターにFedora Coreしかインストールされていないため、項目が1つですが、デュアルブートの場合はWindowsを起動する項目も出ます。



2) Fedora Coreのインストールが成功していると、「ようこそ」という画面が出ます。

これは初回起動時に動くアプリケーションで「ファーストブート」といいます。

この画面は「次へ」をクリックします。

ようこそ

- ▶ ライセンス同意書
- 日付 と 時刻
- ディスプレイ
- ユーザーアカウント
- サウンドカード
- 追加のCD
- セットアップを終了

📄 ライセンス同意書

LICENSE AGREEMENT
FEDORA(TM) CORE 2

This agreement governs the download, installation or use of the Software (as defined below) and any updates to the Software, regardless of the delivery mechanism. The Software is a collective work under U.S. Copyright Law. Subject to the following terms, Fedora Project grants to the user ("User") a license to this collective work pursuant to the GNU General Public License. By downloading, installing or using the Software, User agrees to the terms of this agreement.

1. THE SOFTWARE. Fedora Core (the "Software") is a modular Linux operating system consisting of hundreds of software components. The end user license agreement for each component is located in the component's source code. With the exception of certain image files containing the Fedora trademark identified in Section 2 below, the license terms for the components permit User to copy, modify, and redistribute the component, in both source code and binary code forms. This agreement does not limit User's rights under, or grant User rights that supersede, the license terms of any particular component.

2. INTELLECTUAL PROPERTY RIGHTS. The Software and each of its components, including the source code, documentation, appearance, structure and organization are copyrighted by Fedora Project and

はい、私はライセンス同意書に同意します(Y)

いいえ、同意しません(Q).

3) ライセンス同意書をよく読み、「はい、私はライセンス同意書に同意します」をチェックし、「次へ」をクリックします。

ようこそ

- ▶ ライセンス同意書
- ▶ 日付 と 時刻
- ディスプレイ
- ユーザーアカウント
- サウンドカード
- 追加のCD
- セットアップを終了

🕒 日付 と 時刻

システム用に日付と時刻を設定して下さい。

日付

◀ 2004 ▶ ▶ 10月 ▶

日	月	火	水	木	金	土	日
26	27	28	29	30	1	2	
3	4	5	6	7	8	9	
10	11	12	13	14	15	16	
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26	27	28	29	30	
31	1	2	3	4	5	6	

時刻

現在時刻 : 22:09:32

時 :

分 :

秒 :

ネットワークタイムプロトコル

ネットワークタイムプロトコルを使うとリモートタイムサーバと時間を同期させることができます。

ネットワークタイムプロトコル(ntp)を有効にする(E)

サーバー(S):

4) 日付と時刻は、コンピューターの時計が違っていれば変更し、「次へ」をクリックします。
 * NTPサーバーによる時間同期を行いたい場合には、「ネットワークタイムプロトコル(ntp)を有効にする」をチェックし、「サーバー」にNTPサーバー名を入力し「次へ」をクリックします。

ページ 50/62



5) ディスプレ－の設定は、適切な「解像度」、「色の深さ」を選択し、「次へ」をクリックします。



6) ユーザーアカウントの追加を行う画面です。各項目入力「次へ」をクリックします。「ユーザー名」は、アルファベット、数字以外使わない方がよろしいかと思ひます。「パスワード」と「パスワードの確認」には、同じパスワードを入力します。なお、パスワードは「****」というように直接表示されません。



- 7) サウンドカードが自動認識された場合、この画面が出ます。
「テストサウンドを再生」をクリックします。



- 8) 「ポローン」と3回音になるはずですが、サウンドカードによりデフォルト音量が0のミュート状態になっていることがあります。サンプルの音が聞こえなくても「はい」をクリックします。
ダイアログが消えたら、「次へ」をクリックします。



- 9) 通常、そのまま「次へ」をクリックします。
なお、追加のCDがある場合、インストールができます。



- 10) セットアップが終了しました。「次へ」をクリックするとログイン画面が出ます。
次に「9.1 グラフィカルなアップデート作業(54ページ参照)」へ移ります。

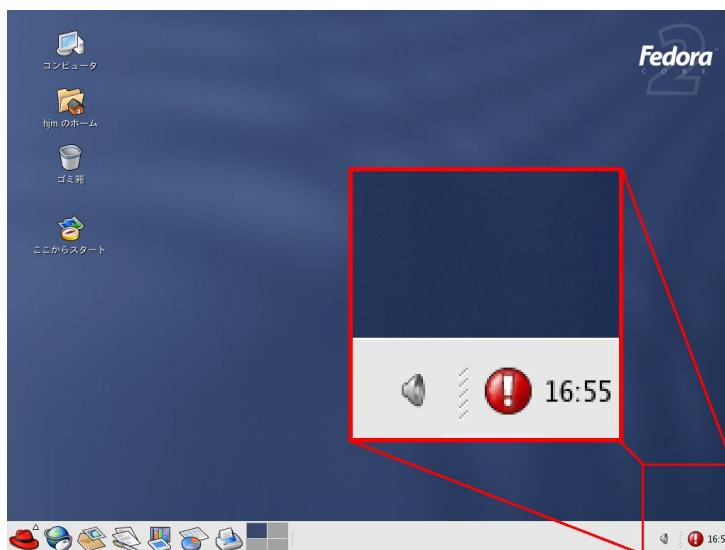
9. アップデート作業

9.1 グラフィカルなアップデート作業

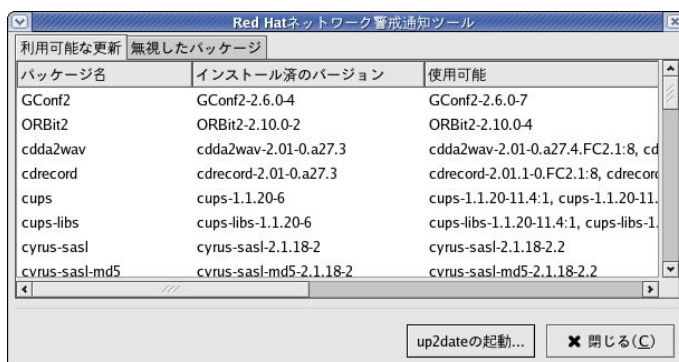
*このセクションは、グラフィカルユーザーログイン環境を前提に書いてあります。



- 1) 「8.1 ファーストブートによる初期設定(49ページ参照)」で作成したユーザーでログインします。
* デスクトップ環境「GNOME」を使っている場合を想定しておりますが、KDEでも同じ手順です。



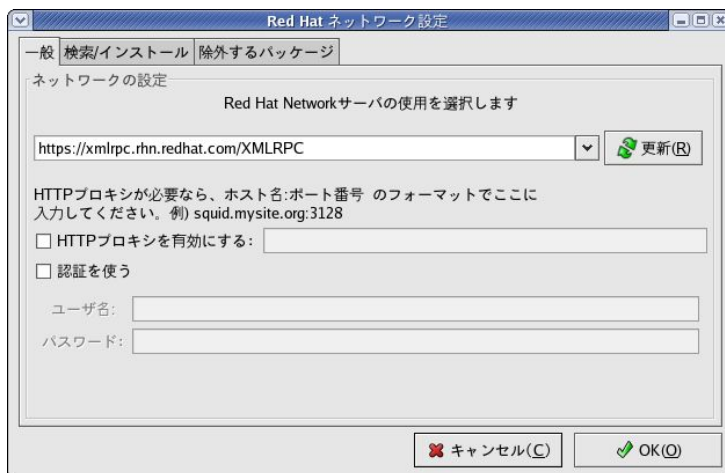
- 2) デスクトップの右下に赤く点滅するボタンがあればクリックします。
* なお、青くなっている場合は、更新の必要はありません。
この赤く点滅するボタンがある時は、現在コンピューターにインストールされているソフトウェアにセキュリティホールが存在していることを意味しています。
* Windows Update と異なり、Fedora Coreでは、Fedora が提供する全てのツールを一元的にアップデートできます。ソフトウェアごとのアップデートは不要です。



3) Red Hatネットワーク警告通知ツールが起動したら、「up2dateの起動」をクリックします。



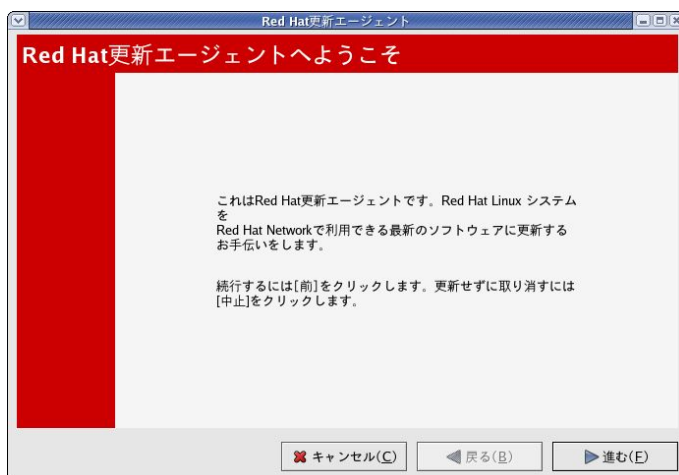
4) up2dateは管理ユーザー権限で動作するため、rootのパスワードを要求してきます。「rootのパスワード」という項目に入力し、「OK」をクリックします。



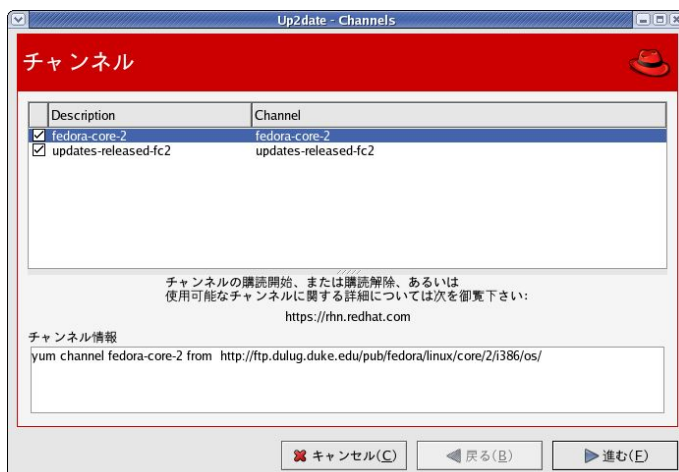
5) Red Hatネットワーク設定は変更せずに「OK」をクリックします。
 * ネットワーク上にプロキシサーバーがある場合は、「HTTPプロキシを有効にする」という項目にチェックし、入力項目に<サーバー名>:<ポート番号>を入力します。



6) 「コンピューターへRed Hat社のGPG認証キーをインストールしてよいか？」と質問されるので、「はい」をクリックします。



7) Red Hat更新エージェントのWelcome画面は「進む」をクリックします。



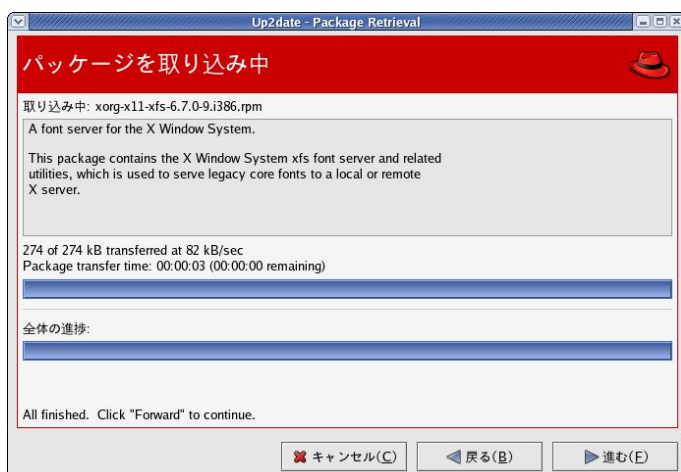
8) チャンネル選択画面では、「fedora-core-2」と「updated-released-fc2」にチェックが入っていることを確認し、「進む」をクリックします。



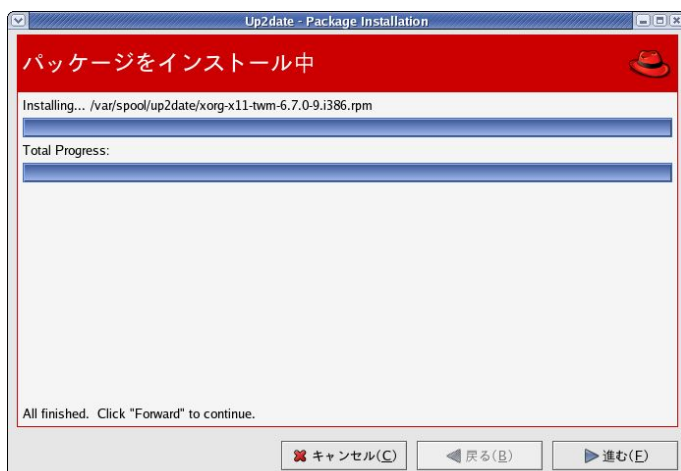
- 9) スキップ対象フラグが付いたパッケージは、「すべてのパッケージを選択」にチェックし、「進む」をクリックします。



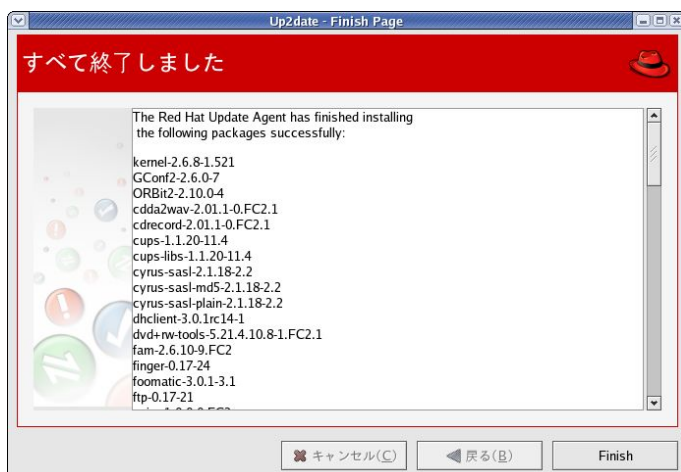
- 10) 更新対象パッケージは、「すべてのパッケージを選択」にチェックし「進む」をクリックします。



- 11) パッケージを取り込み中という画面になりましたら、しばらく待ちます。
左下に「All finished.」とメッセージが出た後に「進む」をクリックします。



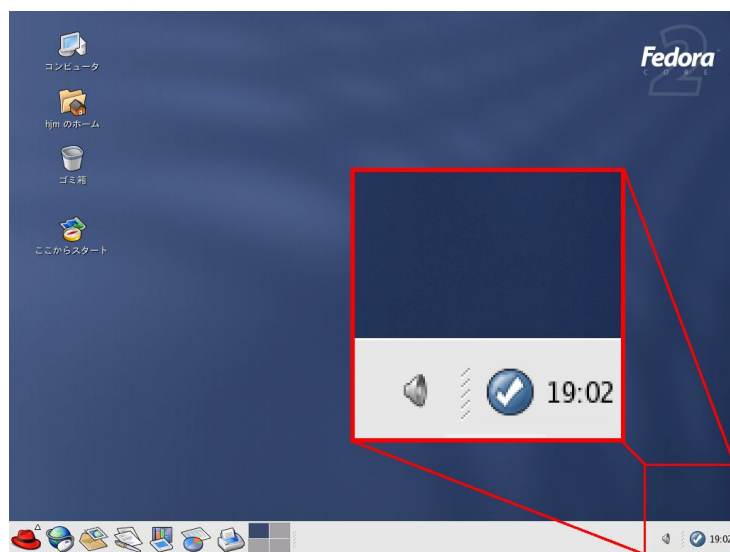
- 12) パッケージをインストール中という画面が出ましたら、しばらく待ちます。
左下に「All finished.」とメッセージが出た後に「進む」をクリックします。



13) すべて終了しましたという画面が出ますと、アップデート成功です。「Finish」をクリックします。



14) 先程の「Red Hatネットワーク警告通知ツール」を閉じていなかった場合、「閉じる」をクリックします。



15) 画面右下の通知アプレットが青くなっていれば、システムは最新の状態です。

9.2 コマンドラインによるアップデート作業

1. yumとは

Fedora Coreで提供されるパッケージは、RPM形式でパッケージングされています。
yumはRPMパッケージの依存性を考慮し、ネットワーク上から必要なRPMパッケージを取得し、インストールするアプリケーションです。
WindowsでいうWindows Updateみたいなものと考えて頂ければよろしいかと思います。

2. yumの参照サーバー変更

* yumのメインサーバーの負荷削減のためミラーサーバーへ変更して頂くようお願い致します。
また、近くのサーバーを利用することでアップデート時間が短くなります。
最新のミラーサーバーは以下のURLから確認できます。
<http://fedora.redhat.com/download/mirrors.html>

```
[main]
cachedir=/var/cache/yum
debuglevel=2
logfile=/var/log/yum.log
pkgpolicy=newest
distroverpkg=redhat-release
tolerant=1
exactarch=1
retries=20

[base]
name=Fedora Core $releasever - $basearch - Base
# baseurl=http://download.fedora.redhat.com/pub/fedora/linux/core/$releasever/$basearch/os/
baseurl=ftp://ftp.riken.go.jp/pub/Linux/fedora/core/$releasever/$basearch/os/

[updates-released]
name=Fedora Core $releasever - $basearch - Released Updates
# baseurl=http://download.fedora.redhat.com/pub/fedora/linux/core/updates/$releasever/$basearch/
baseurl=ftp://ftp.riken.go.jp/pub/Linux/fedora/core/updates/$releasever/$basearch/

#[updates-testing]
#name=Fedora Core $releasever - $basearch - Unreleased Updates
#baseurl=http://download.fedora.redhat.com/pub/fedora/linux/core/updates/testing/$releasever/$basearch/
```

1) エディターで「/etc/yum.conf」を開きます。

2) [base]セクションのbaseurlの頭に#を追加し、コメントアウトします。

以下のリストから1行を追加します。

```
baseurl=ftp://ftp.riken.go.jp/pub/Linux/fedora/core/$releasever/$basearch/os/
baseurl=ftp://ftp.sfc.wide.ad.jp/pub/Linux/Fedora/$releasever/$basearch/os/
baseurl=ftp://ftp.kddilabs.jp/Linux/packages/fedora/core/$releasever/$basearch/os/
baseurl=http://ftp.kddilabs.jp/Linux/packages/fedora/core/$releasever/$basearch/os/
```

3) [updates-released]セクションのbaseurlの頭に#を追加し、コメントアウトします。

以下のリストから1行を追加します。

```
baseurl=ftp://ftp.riken.go.jp/pub/Linux/fedora/core/updates/$releasever/$basearch/
baseurl=ftp://ftp.sfc.wide.ad.jp/pub/Linux/Fedora/updates/$releasever/$basearch/
baseurl=ftp://ftp.kddilabs.jp/Linux/packages/fedora/core/updates/$releasever/$basearch/
baseurl=http://ftp.kddilabs.jp/Linux/packages/fedora/core/updates/$releasever/$basearch/
```

4) ファイルの修正が終わりましたら保存します。

3. yumによるアップデート作業

1) コンソールやSSH経由で、rootユーザーとしてログインします。

```
[root@netvista root]# yum check-update
Gathering header information file(s) from server(s)
Server: Fedora Core 2 - i386 - Base
Server: Fedora Core 2 - i386 - Released Updates
Finding updated packages
Downloading needed headers
pango-0-1.4.1-1.i386.hdr 100% ===== 5.7 kB 00:00
iiimf-protocol-lib-1-11.4 100% ===== 5.3 kB 00:00
xorg-x11-xauth-0-6.7.0-9. 100% ===== 70 kB 00:00
finger-0-0.17-24.i386.hdr 100% ===== 2.7 kB 00:00
gstreamer-0-0.8.3-2.i386. 100% ===== 6.6 kB 00:00
gnome-session-0-2.6.0-4. 100% ===== 7.1 kB 00:00
libwnck-0-2.6.0.1-3.i386. 100% ===== 5.1 kB 00:00
imlib-1-1.9.13-19.i386.hd 100% ===== 3.9 kB 00:00
gdk-pixbuf-1-0.22.0-11.3. 100% ===== 5.1 kB 00:00
kudzu-0-1.1.68.2-1.i386.h 100% ===== 13 kB 00:00
gtk2-0-2.4.7-2.6.i386.hdr 100% ===== 16 kB 00:00
iiimf-x-1-11.4-46.1.svn15 100% ===== 5.7 kB 00:00
fam-0-2.6.10-9.FC2.i386.h 100% ===== 4.1 kB 00:00
libbonobo-0-2.6.2-1.i386. 100% ===== 6.0 kB 00:00
gaim-1-1.0.0-0.FC2.i386.h 100% ===== 20 kB 00:00
iiimf-client-lib-1-11.4-4 100% ===== 5.2 kB 00:00
tzdata-0-2004b-1.fc2.noar 100% ===== 29 kB 00:00
xorg-x11-Mesa-libGLU-0-6. 100% ===== 70 kB 00:00
```

2) コマンドラインにて「yum check-update」と実行します。
このコマンドでyumリポジトリとパッケージ情報一覧を取得します。

```
[root@netvista root]# yum -y update
Gathering header information file(s) from server(s)
Server: Fedora Core 2 - i386 - Base
Server: Fedora Core 2 - i386 - Released Updates
Finding updated packages
Downloading needed headers
Resolving dependencies
I will do the following:
[install: kernel 2.6.8-1.521.i686]
[update: pango 1.4.1-1.i386]
[update: cups 1:i:1.1.20-11.4.i386]
[update: xorg-x11-xauth 6.7.0-9.i386]
[update: gdk-pixbuf 1:0.22.0-11.3.5.i386]
[update: ORBit2 2.10.0-4.i386]
[update: samba-common 3.0.7-2.FC2.i386]
[update: xorg-x11-tools 6.7.0-9.i386]
[update: jcode.pl 2.13-9.2.noarch]
[update: initscripts 7.55.1-1.i386]
[update: system-config-network-tui 1.3.17-0.FC2.1.noarch]
[update: finger 0.17-24.i386]
[update: net-tools 1.60-25.1.i386]
[update: cdda2wav 8:2.01.1-0.FC2.1.i386]
[update: cups-libs 1:1.1.20-11.4.i386]
[update: kcc 2.3-20.1.i386]
```

3) コマンドラインにて「yum -y update」と実行します。
このコマンドで更新が必要なパッケージをダウンロードし、インストールできます。
*「-y」オプションを外すとインストール前に「Is this ok [y/N]」と最終確認されます。

```
-session 2.6.0-4.i386 odrecord 8:2.01.1-0.FC2.1.i386 man-pages-ja 20040715-3.noa
rch libwnck 2.6.0.1-3.i386 ppp 2.4.2-3.FC2.1.i386 imlib 1:1.9.13-19.i386 GConf2
2.6.0-7.i386 xorg-x11 6.7.0-9.i386 iiimf-server 1:11.4-46.1.svn1587.i386 gnome-a
pplets 1:2.6.2.1-1.i386 iiimf-protocol-lib 1:11.4-46.1.svn1587.i386 hwddata 0.120
-1.noarch xorg-x11-xfs 6.7.0-9.i386 gstreamer 0.8.3-2.i386 kudzu 1.1.68.2-1.i386
gtk2 2.4.7-2.6.i386 lha 1.14i-14.1.i386 iiimf-x 1:11.4-46.1.svn1587.i386 iiimf-
docs 1:11.4-46.1.svn1587.i386 fam 2.6.10-9.FC2.i386 xorg-x11-100dpi-fonts 6.7.0-
9.i386 system-config-date 1.7.3.1-0.fc2.1.noarch sox 12.17.4-4.fc2.i386 vnc-serv
er 4.0-5.i386 libbonobo 2.6.2-1.i386 xorg-x11-libs 6.7.0-9.i386 cyrus-sasl 2.1.1
8-2.2.i386 mozilla-nspr 37:1.7.3-0.2.0.i386 cyrus-sasl-md5 2.1.18-2.2.i386 gaim
1:1.0.0-0.FC2.i386 gimp 1:2.0.4-0.fc2.1.i386 libgnome 2.6.0-3.i386 iiimf-client-
lib 1:11.4-46.1.svn1587.i386 xorg-x11-75dpi-fonts 6.7.0-9.i386 xorg-x11-base-fon
ts 6.7.0-9.i386 iiimf-csconv 1:11.4-46.1.svn1587.i386 mozilla-nss 37:1.7.3-0.2.0
.i386 mozilla 37:1.7.3-0.2.0.i386 cyrus-sasl-plain 2.1.18-2.2.i386 info 4.7-4.i3
86 xinitrc 3.42-1.noarch tzdata 2004b-1.fc2.noarch xorg-x11-twm 6.7.0-9.i386 foo
matic 3.0.1-3.1.i386 qt 1:3.3.3-0.1.i386 xorg-x11-font-utils 6.7.0-9.i386 iiimf-
le-canna 1:11.4-46.1.svn1587.i386 dvd+rw-tools 5.21.4.10.8-1.FC2.1.i386 iiimf-gt
k 1:11.4-46.1.svn1587.i386 dhclient 2:3.0.lrc14-1.i386 nfs-utils 1.0.6-22.i386 k
rb5-libs 1.3.4-6.i386 libpng 2:1.2.5-8.i386 xorg-x11-Mesa-libGL 6.7.0-9.i386 xor
g-x11-Mesa-libGLU 6.7.0-9.i386 system-config-display 1.0.17-2.noarch gstreamer-p
lugins 0.8.2-2.1.i386 mkisofs 8:2.01.1-0.FC2.1.i386 rsync 2.6.2-1.fc2.0.i386 xor
g-x11-libs-data 6.7.0-9.i386
Transaction(s) Complete
[root@netvista root]#
```

- 4) パッケージのインストールが完了すると、インストールしたパッケージ一覧が表示され、「Transaction(s) Complete」と表示されます。このメッセージが表示されると成功です。